

三朝町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

I. 調査概要

1 目的

本事業は、地域に在住する高齢者の生活状況等を調査し、高齢者が抱える課題や各種福祉サービスニーズを把握することで、次期介護保険事業計画策定に資するとともに、介護予防事業対象者の早期発見・早期対応に繋げることを目的とする。

2 実施内容

(1) 対象者

65歳以上の高齢者【基準日：R8.2.1】のうち、要介護認定者及び入院者等を除いたもの
(2,028人)

※参考：高齢者数（65歳以上） 2,400人

要介護認定者及び入院者等数 372人

(2) 実施時期

令和8年2月～3月

(3) 調査票

別紙のとおり

(4) 調査票の配布・回収方法

調査対象者への郵送・返信方式による配布・回収

(5) 回答数 1,410人（回答率 69.5%）（前回65.9%）

（男：631人 女：779人）

年 齢	人 数	割合（%）
65 ～ 69	304	21.6
70 ～ 74	359	25.5
75 ～ 79	358	25.4
80 ～ 84	182	12.9
85 ～ 89	123	8.7
90 ～	84	5.9
合 計	1,410	100.0

(6) 回答者

・本人回答 1,319人（93.5%）

・家族回答 86人（6.1%）

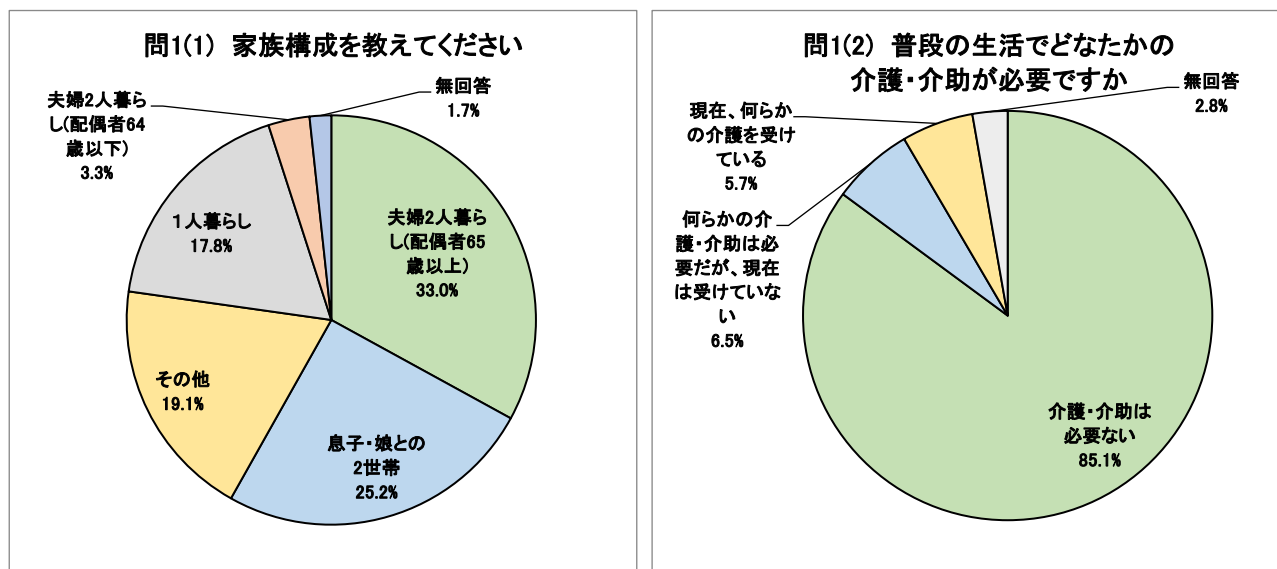
・その他 3人

・無回答 2人

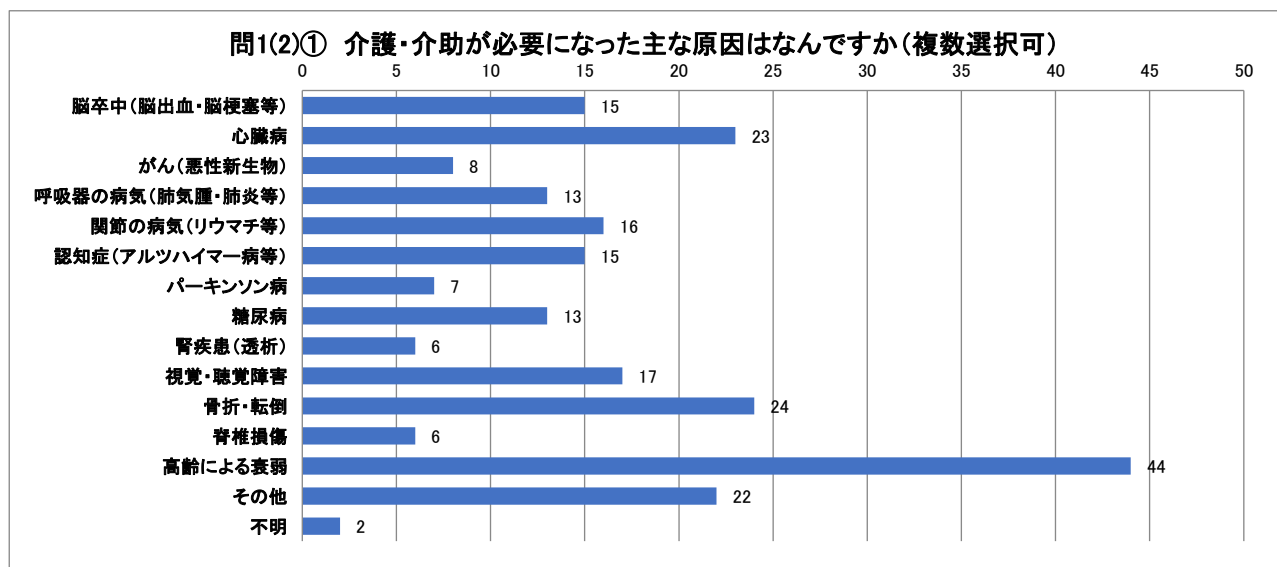
Ⅱ．調査結果概要

問1 あなたのご家族や生活状況について

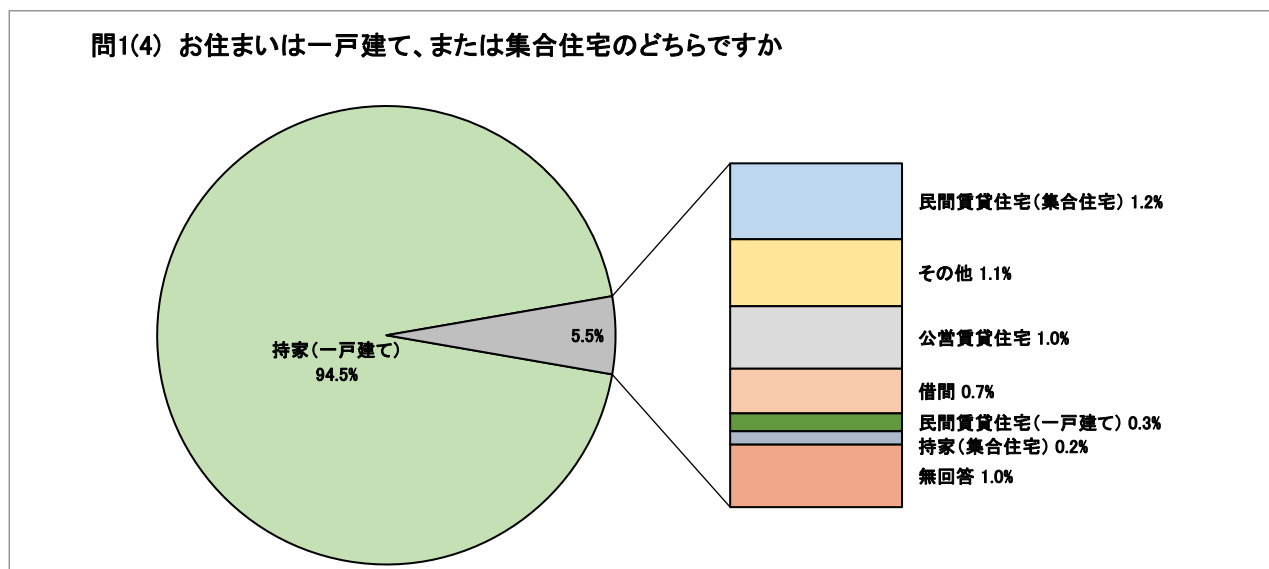
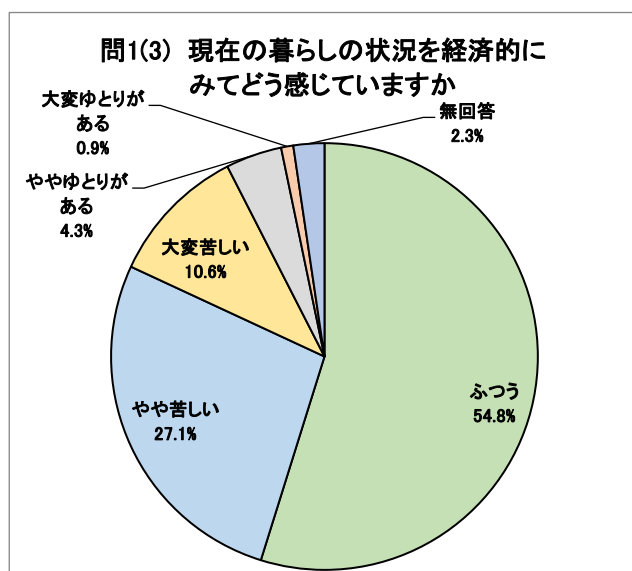
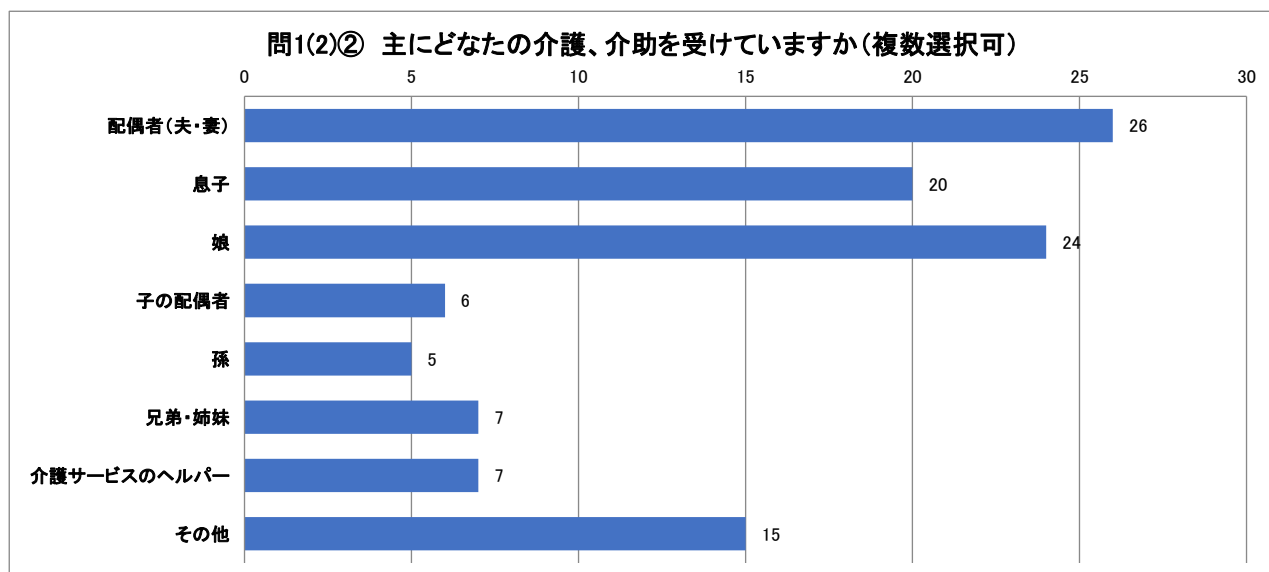
- (1) 家族構成の割合について、「一人暮らし」が17.8%であり、前回調査（19.0%）より減少した。「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が最も高く33.0%となっている。
- (2) 「介護・介助は必要ない」が85.1%であった。前回調査から大きな変化はない。
- (2)① 介護・介助が必要になった原因は、「高齢による衰弱」の割合が最も高く21.0%あった。次いで、「骨折・転倒」が11.4%、「心臓病」が11.0%であった。
- (2)② 主な介護者は「配偶者(夫・妻)」が最も多く、次いで、「娘」、「息子」の順となっている。
- (3) 経済的に「大変苦しい」、「やや苦しい」と回答した方はあわせて37.7%あった。前回調査（33.6%）より増加した。
- (4) 住んでいる住宅は、持ち家（一戸建て）が94.5%で最多であった。



問1(2)で「介護・介助は必要ない」以外の方のみ

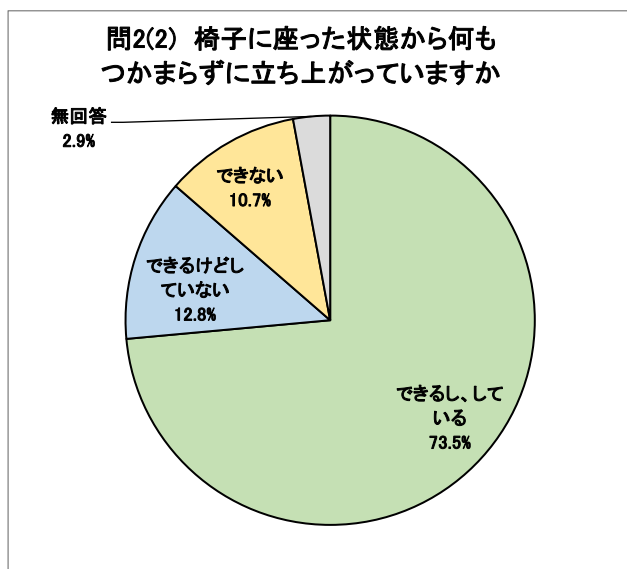
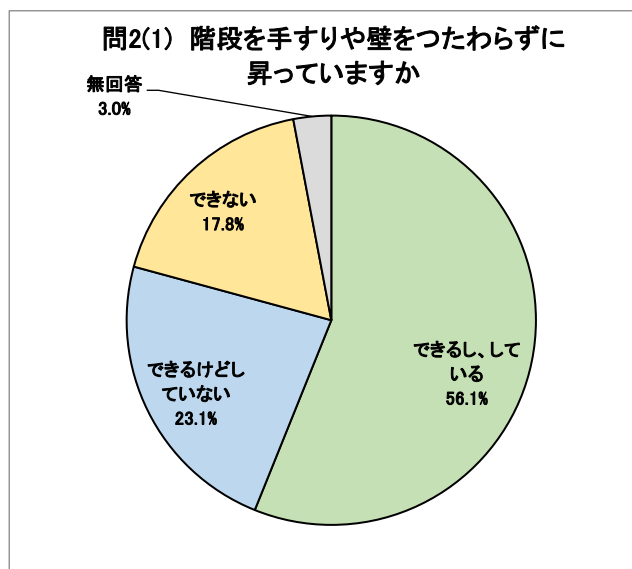


問1(2)で「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ

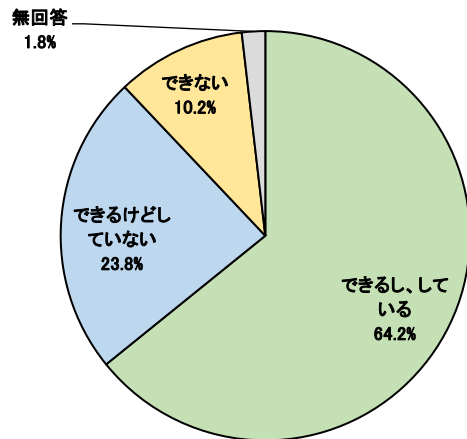


問2 からだを動かすことについて

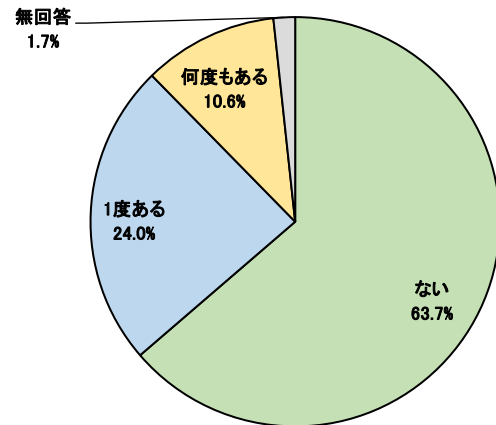
- (1) 階段昇降で40.9%の方が手すりなどを使っている。前回調査（39.4%）より若干増加した。
- (2) 椅子から何もつかまらず立ち上がっている方が73.5%で、前回調査（70.6%）より増加した。
- (3) 15分位続けて歩けるかという設問で、「できるし、している」の割合が64.2%、「できるけどしていない」が23.8%であった。足腰の運動機能の向上・維持のため、この23.8%の方が「できるし、している」に移行するよう、引き続き働きかけを行う必要がある。
- (4) 過去1年間に転んだ経験について「何度もある」が10.6%、「1度ある」が24.0%であった。
- (5) 転倒に対して「とても不安である」、「やや不安である」を合わせると51.0%であった。約半数の方が不安を感じており、転倒リスクに対する意識は高いと感じられる。
- (6) 1週間の外出の回数は「週2～4回」が1番多く41.8%で、次いで「週5回以上」が37.9%であった。一方「週1回」が12.6%、「ほとんど外出しない」が5.2%であった。前回調査より全体的に改善傾向にあるが、引き続き外出頻度を上げる取り組みを継続する必要がある。
- (7) 昨年より外出が「減っていない」が41.3%、「あまり減っていない」が33.4%、「減っている」が20.6%、「とても減っている」が3.4%で、前回調査より全体的に若干の改善傾向にある。
- (8) 外出を控えている方は17.2%であった。前回調査（27.5%）より大幅に減少した。
- (8)① 外出を控えている理由としては、「足腰などの痛み」が最も多い。次いで、「交通手段がない」、「病気」などとなった。前回最多であった新型コロナウイルス等の感染症（「その他」）を選択し記載）を理由とした方はわずかに1名であり、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行が大きく影響しているものと考えられる。
- (9) 外出での移動手段では、「自動車（自分で運転）」、「徒歩」、「自動車（人に乗せてもらう）」「路線バス」の順で多い。この順番は前回調査と同様である。自分で運転するか否かを問わず、自動車が移動に不可欠であることがわかる。



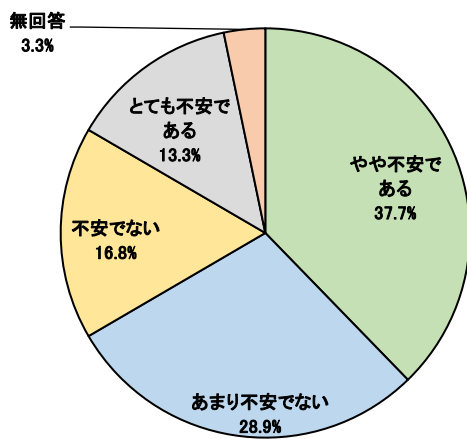
問2(3) 15分位続けて歩いていますか



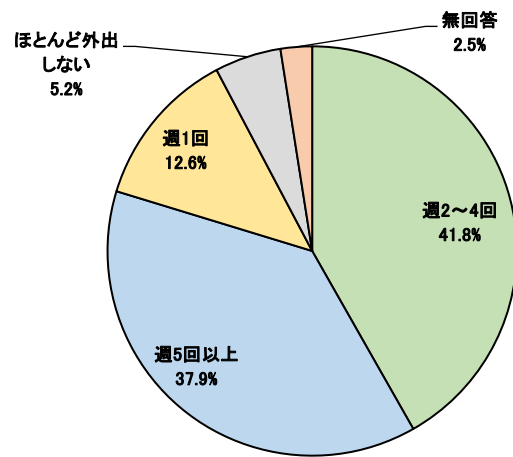
問2(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか



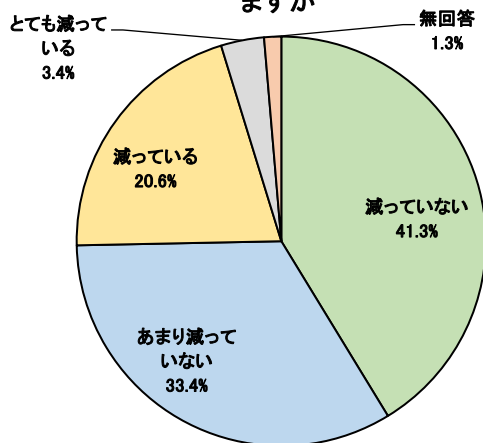
問2(5) 転倒に対する不安は大きいですか



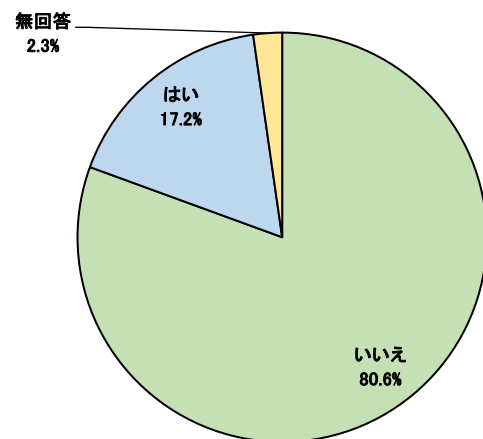
問2(6) 週に1回以上は外出していますか



問2(7) 昨年と比べ外出の回数が減っていますか

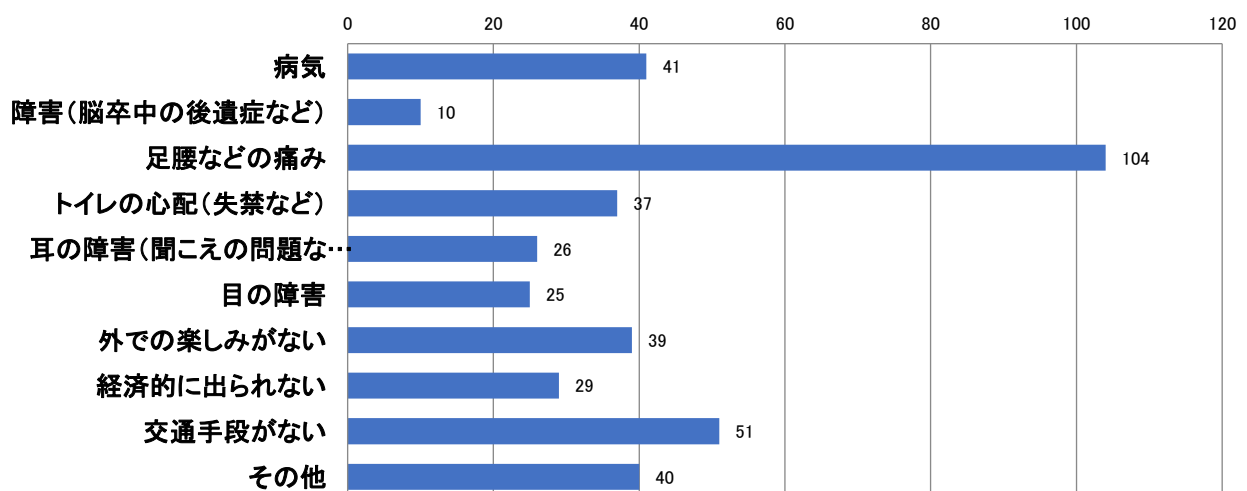


問2(8) 外出を控えていますか

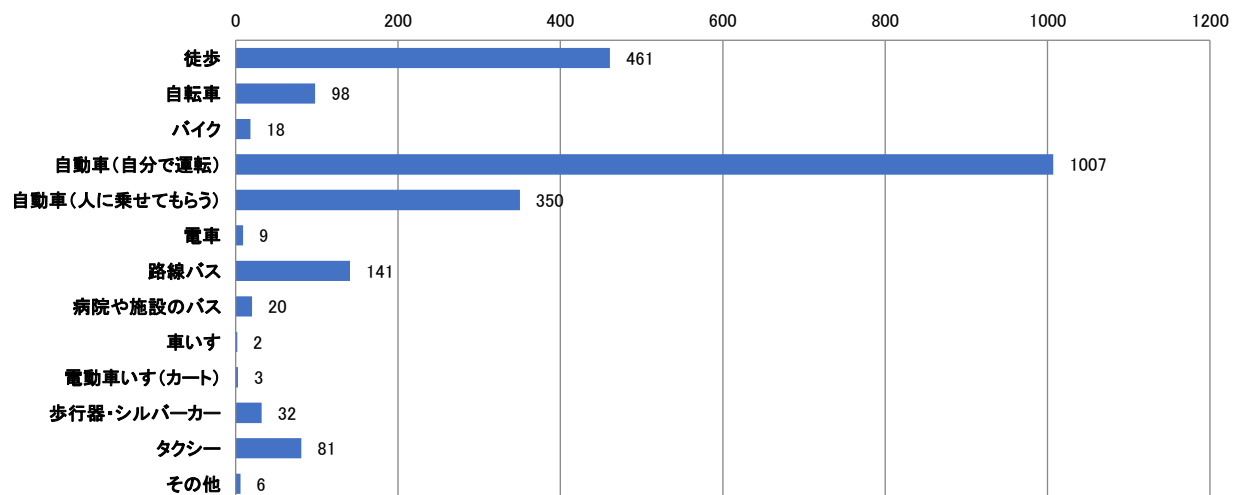


問2(8)で「はい」の方のみ

問2(8)① 外出を控えている理由は、次のどれですか(複数選択可)



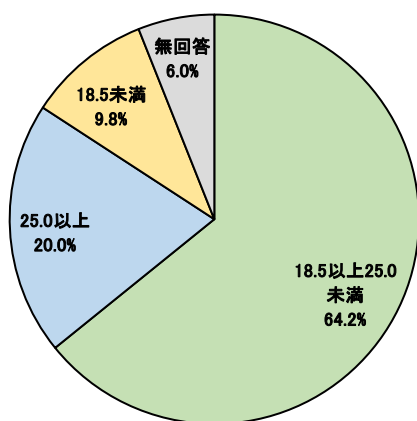
問2(9) 外出する際の移動手段は何ですか(複数選択可)



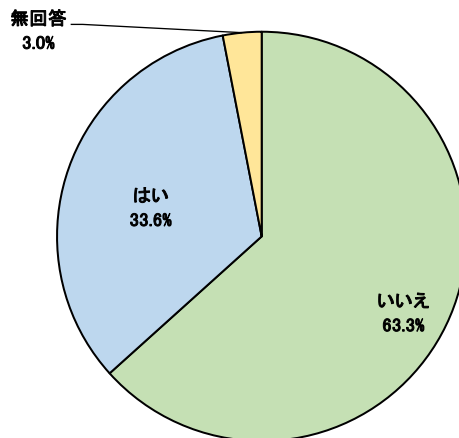
問3 食べることにについて

- (1) 身長・体重をもとにBMIを算出したところ、18.5以上25.0未満の方が67.5%、25.0以上の方が20.0%、18.5未満の方が9.8%であった。
- (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなっていると感じている方が33.6%であった。前回調査（33.8%）から大きな変化はない。
- (3) お汁や汁物等でむせることがある方が23.3%であった。前回調査（24.2%）より若干減少した。
- (4) 口の渇きが気になる方が23.6%であった。前回調査（21.6%）より増加した。
- (5) 歯磨きを毎日している方が88.2%であった。前回調査（89.2%）より若干減少した。
- (6) 入れ歯を利用している方が54.4%であった。前回調査（57.2%）より減少した。
- (6)① 噛み合わせは良いという方が75.2%であった。前回調査（73.8%）より増加した。
- (6)② 毎日入れ歯の手入れをしている方が、入れ歯を利用している方のうち85.9%あった。前回調査（79.2%）と比較すると大きく増加した。
- (7) 6ヵ月間で2～3kg以上の体重減少があった方が12.5%あった。前回調査（10.6%）より増加した。
- (8) 誰かと食事をともにする機会について、「毎日ある」が60.2%、「月に何度かある」が11.9%、「年に何度かある」が9.2%、「週に何度かある」が7.4%であった。
- (9) 口の中に異常を感じたときに歯科に行く方が71.8%であった。前回調査（73.6%）より減少した。
- (10) 口腔ケアという言葉を知っている方が88.4%であった。前回調査（86.2%）より増加した。
- (11) 口腔ケアが健康維持につながるということを知っている方が87.2%であった。前回調査（82.3%）より大幅に増加した。「口腔ケア」に係る啓発の効果があり、定着してきたと考えられる。

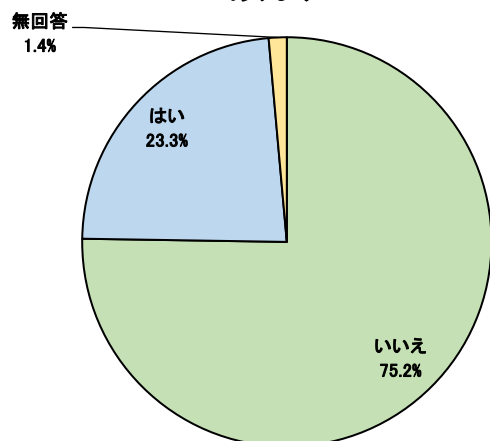
問3(1) 身長・体重を教えてください
(BMIを算出)



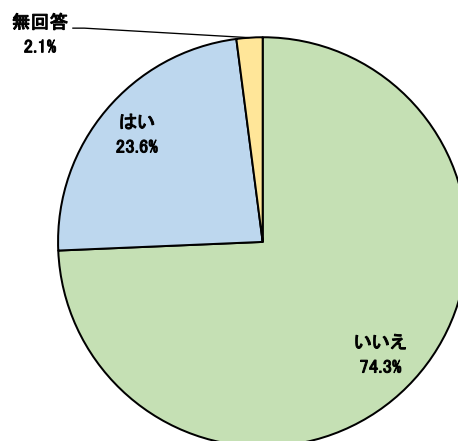
問3(2) 半年前に比べて固い物が
食べにくくなりましたか



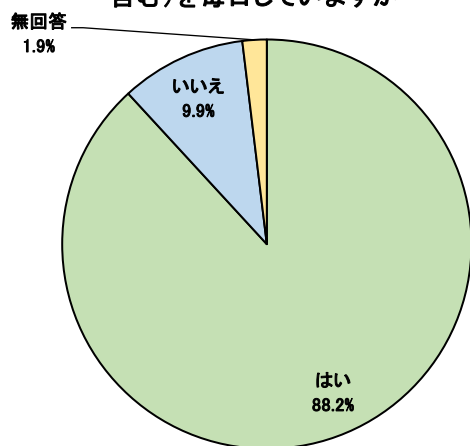
問3(3) お茶や汁物等でむせることがありますか



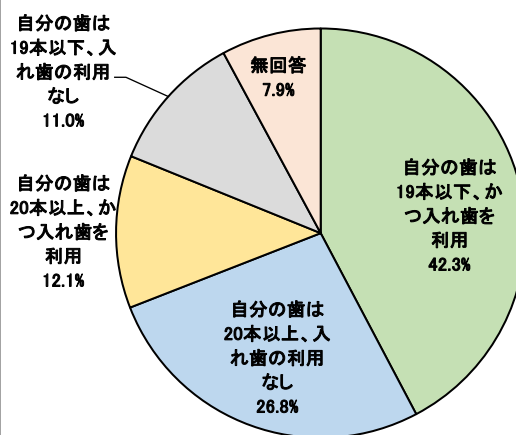
問3(4) 口の渇きが気になりますか



問3(5) 歯磨き(人にやってもらう場合を含む)を毎日していますか

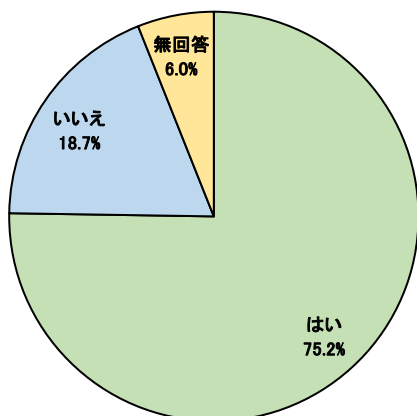


問3(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください

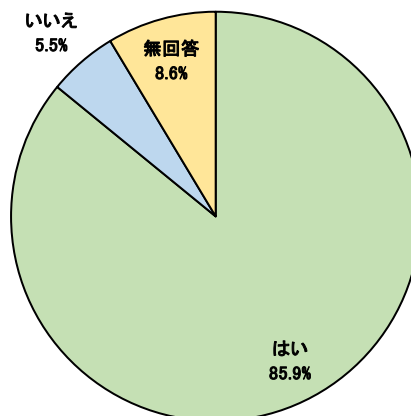


問3(6)で「入れ歯を利用」の方のみ

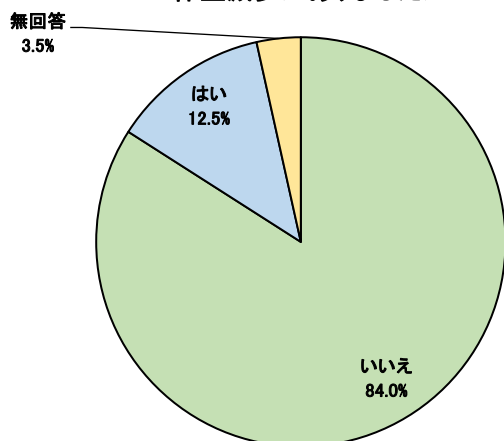
問3(6)① 噛み合わせは良いですか



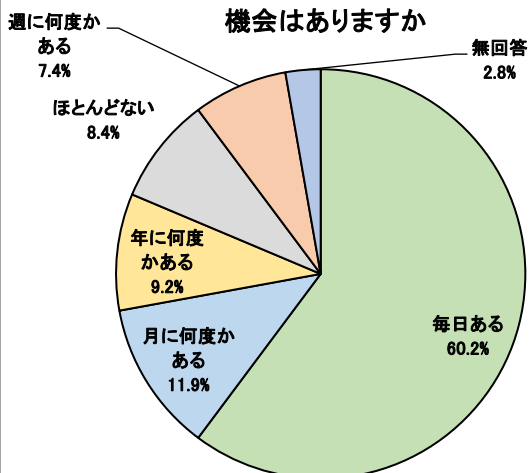
問3(6)② 毎日入れ歯の手入れをしていますか



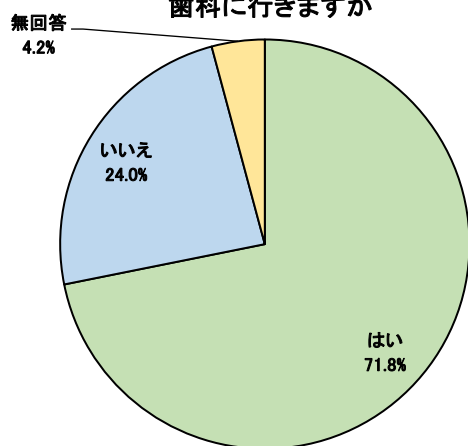
問3(7) 6か月間で2～3kg以上の
体重減少がありましたか



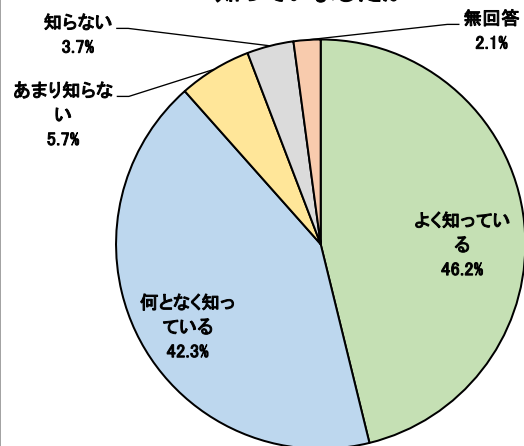
問3(8) どなたかと食事をとるに
する機会がありますか



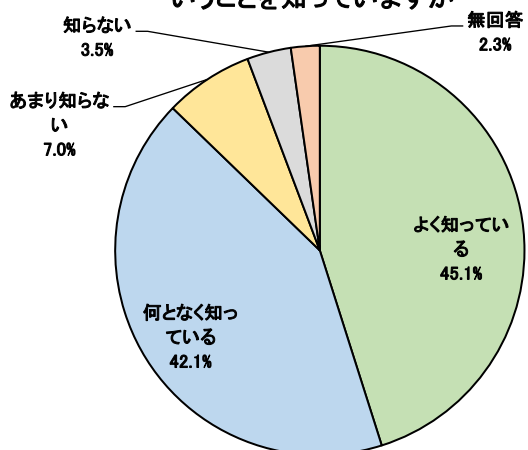
問3(9) 口の中に異常を感じたときに
歯科に行きますか



問3(10) 口腔ケアという言葉を知っていましたか



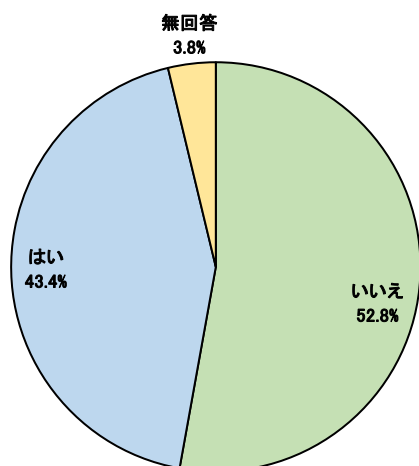
問3(11) 口腔ケアが健康維持につながると
いうことを知っていますか



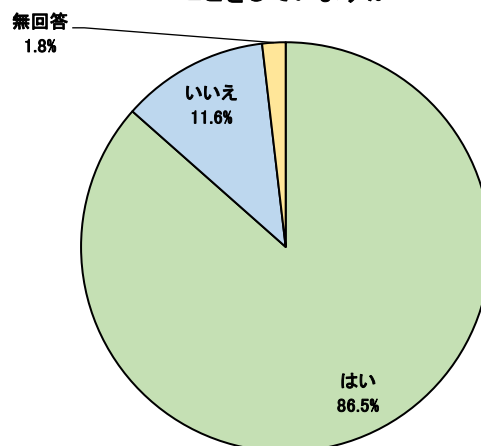
問4 毎日の生活について

- (1) 物忘れが多いと感じている方が43.4%であった。前回調査と同じ割合であった。
- (2) 自分で電話番号を調べて電話をかける方が86.5%であった。前回調査と同じ割合であった。
- (3) 日付がわからない時がある方が25.8%であった。前回調査（23.9%）より若干増加した。
- (4) バスや電車を使って1人で外出できる方が78.9%であった。前回調査（78.4%）より若干増加した。
- (5) 食品や日用品の買物について、「できるし、している」が85.4%、「できるけどしていない」が9.5%、「できない」が3.0%であった。できない人の割合は前回調査（4.2%）より若干減少しており、買い物に関する困り感はあまり顕在化していない。
- (6) 食事の用意について、「できるし、している」が74.3%、「できるけどしていない」が17.7%、「できない」が5.6%であった。前回調査（それぞれ71.9%、19.7%、6.1%）と比較すると、できる方の割合はほぼ同様であったが、その中でも実際にしている方の割合が増加した。
- (7) 請求書等の支払いについて、「できるし、している」が85.0%であった。前回調査（83.7%）より若干増加した。
- (8) 預貯金の出し入れについて、「できるし、している」が86.2%であった。前回調査（83.8%）より増加した。
- (9) 年金などの書類が書ける方が91.3%であった。前回調査（88.5%）より増加した。
- (10) 新聞を読んでいる方が82.6%であった。前回調査（83.1%）より若干減少した。
- (11) 本や雑誌を読んでいる方が68.7%であった。前回調査（70.3%）より若干減少した。
- (12) 健康についての記事や番組に関心がある方が86.5%であった。前回調査（78.9%）より大幅に増加しており、健康意識が高まっていることが窺える。
- (13) 友人の家を訪ねている方が49.0%であった。前回調査（50.3%）より若干減少した。減少傾向が続いている。
- (14) 家族や友人の相談にのっている方が71.2%あった。前回調査（73.0%）より若干減少した。
- (15) 病人を見舞うことができる方が82.3%であった。前回調査（76.8%）より大幅に増加した。
- (16) 若い人に自分から話しかける方が74.0%であった。前回調査（76.0%）より減少した。
- (17) 趣味がある方が67.5%であった。前回調査（67.0%）より若干増加した。趣味の内容としては「花植」、「ガーデニング」「野菜作り」「農業」などの園芸・農業が大きな割合を占めており、次いで「スポーツ」「山登り」など身体を使う趣味の割合が高くなっている。
- (18) 生きがいがある方が52.4%であった。前回調査（54.9%）より減少した。生きがいの内容としては「孫、ひ孫」の成長や世話をはじめとして、配偶者や子も含めた家族・親族との関係が極めて大きな比率を占めた。次いで趣味でも多くを占めた「農業」、「スポーツ」などとなっている。「仕事」の割合も比較的高い。今後の介護予防において、祖父母と孫など、世代を超えて一緒に参加でき、楽しめるような事業展開が望まれる。

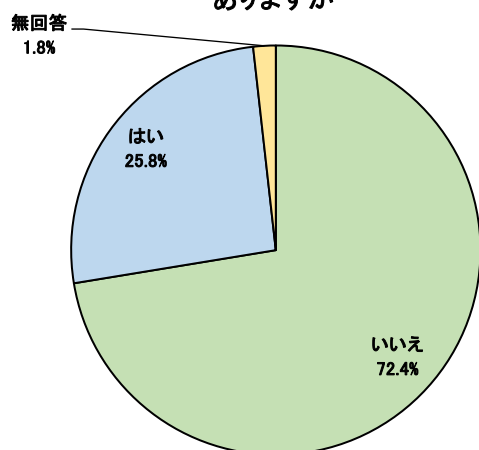
問4(1) 物忘れが多いと感じますか



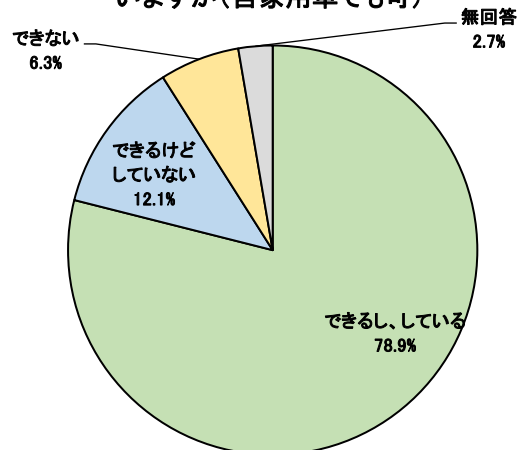
問4(2) 電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか



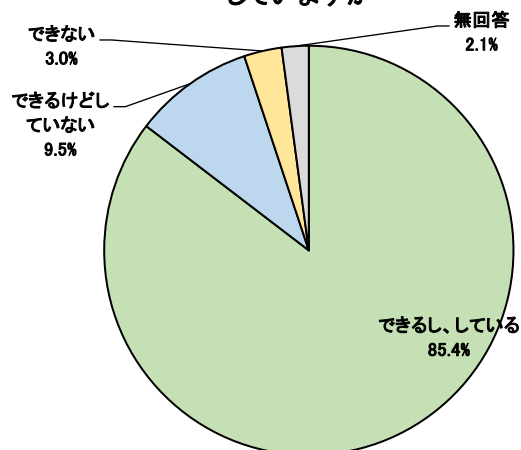
問4(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか



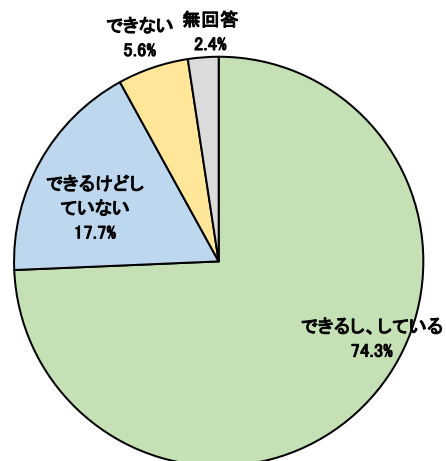
問4(4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)



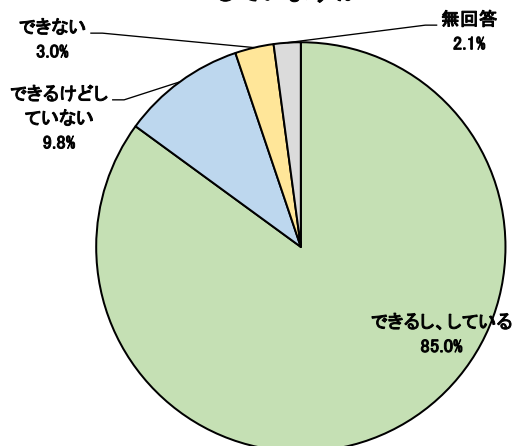
問4(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか



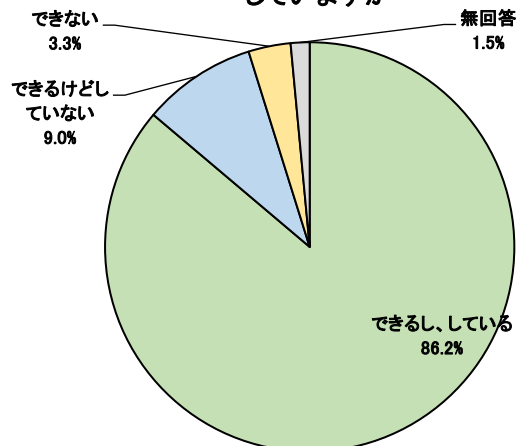
問4(6) 自分で食事の用意をしていますか



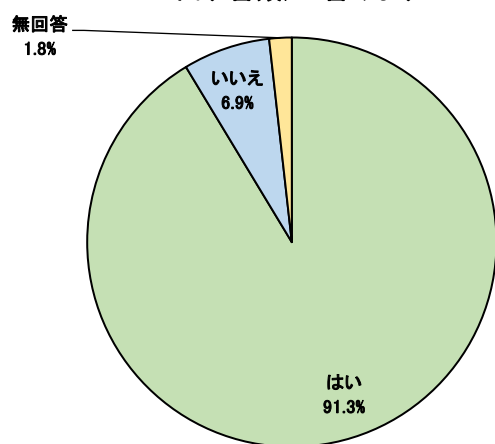
問4(7) 自分で請求書の支払いをしていますか



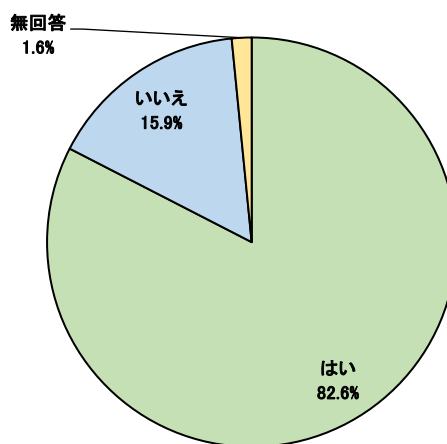
問4(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか



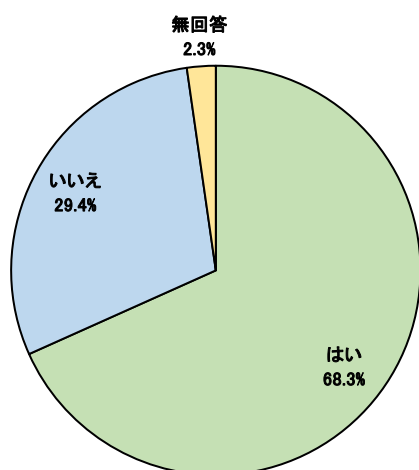
問4(9) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか



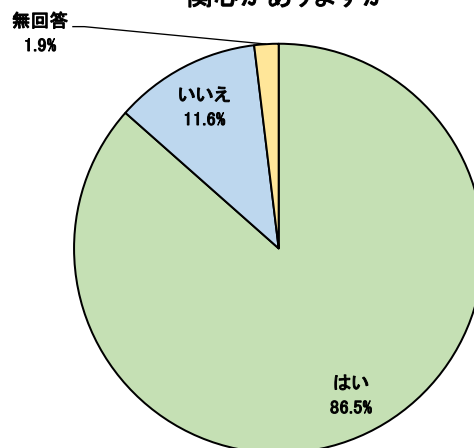
問4(10) 新聞を読んでいますか



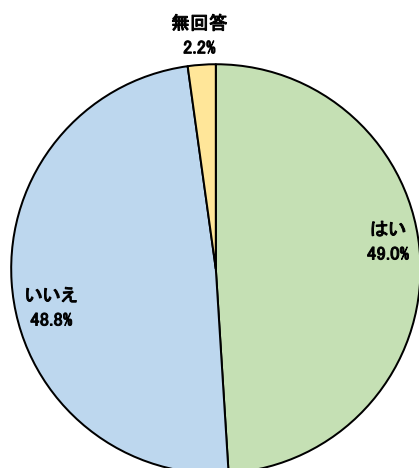
問4(11) 本や雑誌を読んでいますか



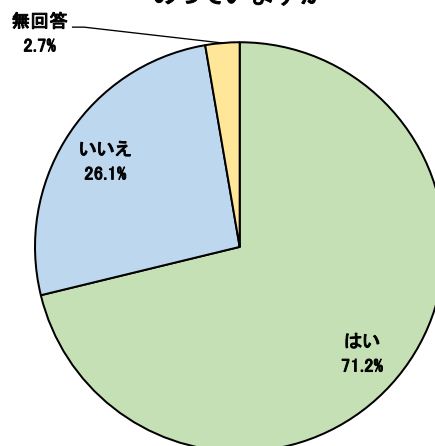
問4(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか



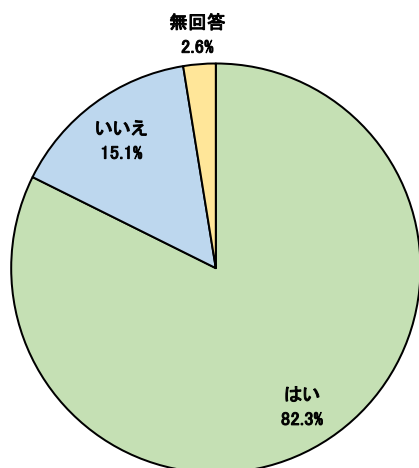
問4(13) 友人の家を訪ねていますか



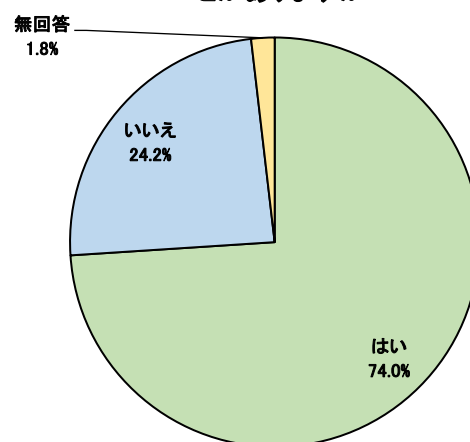
問4(14) 家族や友人の相談にのっていますか



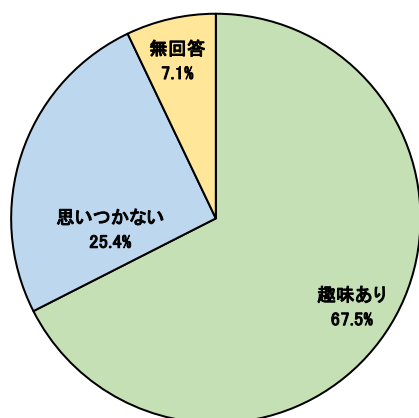
問4(15) 病人を見舞うことができますか



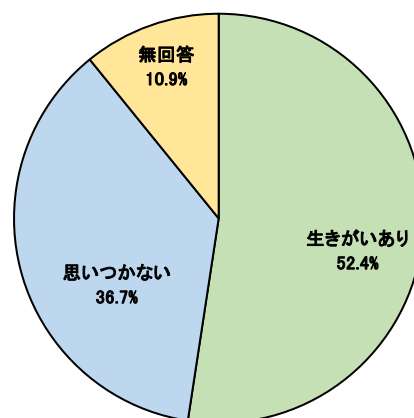
問4(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか



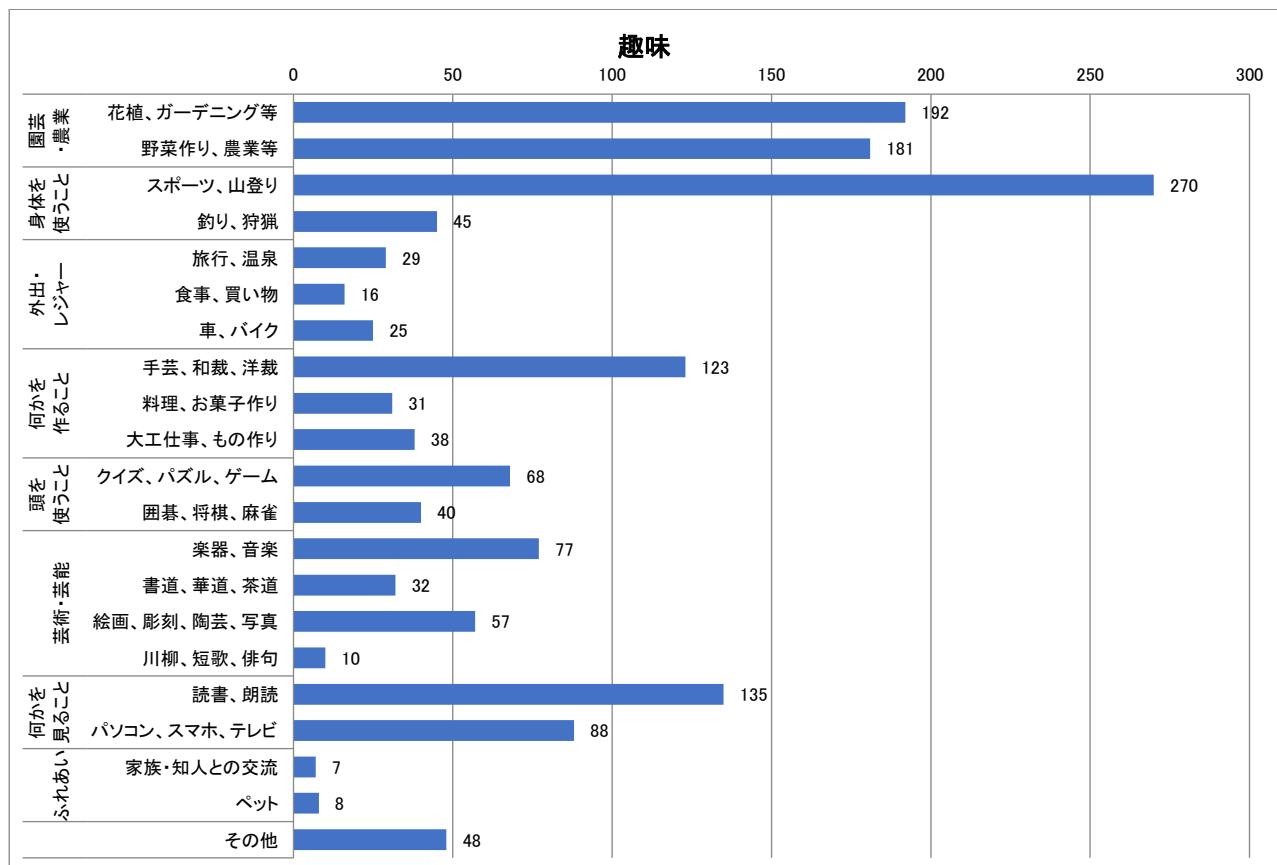
問4(17) 趣味はありますか



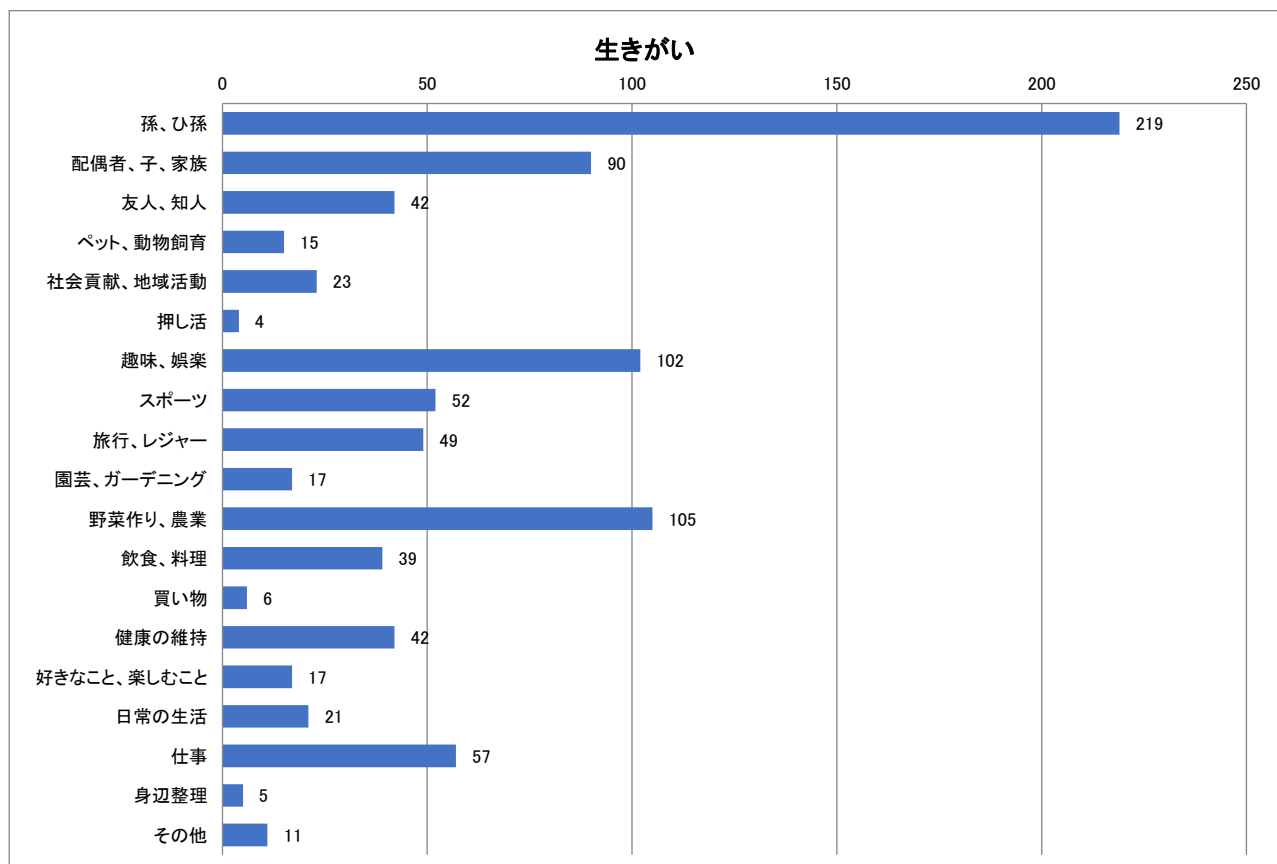
問4(18) 生きがいはありますか



問4(17)で「趣味あり」の方のみ（自由記載）



問4(18)で「生きがいあり」の方のみ（自由記載）

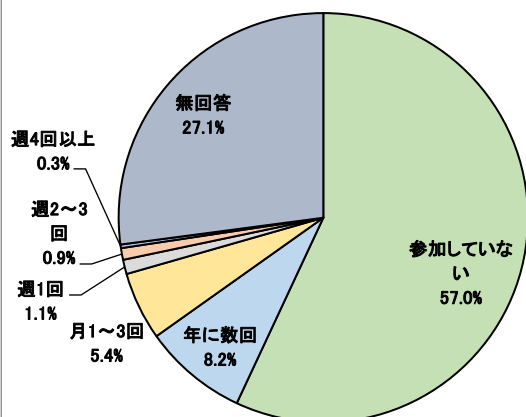


問5 地域での活動について

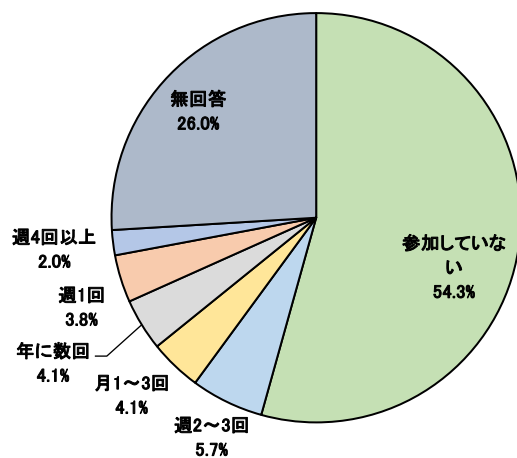
- (1)① ボランティアのグループへの参加は、「年に数回」が8.2%、「月1～3回」が5.4%、「週1回」が1.1%であった。前回調査から大きな変化はない。前回調査では前々回調査から参加率が大きく減少しており、その要因について新型コロナウイルス感染症に係る活動制限などが影響していると分析していたが、5類感染症移行後も参加率は低迷したままとなっている。
- (1)② スポーツ関係のグループやクラブへの参加は、「週2～3回」が5.7%、「年に数回」、「月に1～3回」がいずれも4.1%、「週1回」が3.8%、「週4回以上」が2.0%であった。
- (1)③ 趣味関係のグループへの参加は、「月に1～3回」が7.9%、「年に数回」が7.6%、「週1回」が3.6%、「週2～3回」が2.1%、「週4回以上」が1.1%であった。
- (1)④ 学習・教養サークルへの参加は、「年に数回」が6.5%、「月1～3回」が2.3%、「週1回」が1.0%であった。
- (1)⑤ 介護予防のための憩いの場への参加は、「月に1～3回」が2.1%、「年に数回」が1.6%であった。参加している方の合計はおよそ6.0%で、前回調査から大きな変化はなかった。この設問も、前回調査では前々回調査に比べ大きく減少しており、その要因について新型コロナウイルス感染症に係る活動制限などが影響していると分析していたが、やはり5類感染症移行後も参加率は低迷したままとなっている。今後より一層、週間体操ラドンや集落単位で行っているいきいきサロンなど、積極的な啓発を行いながら参加者を増やす取り組みが必要である。
- (1)⑥ 老人クラブへの参加は、「年に数回」が5.6%、「月1～3回」が3.5%であった。「参加していない」が61.7%で、前回調査（63.4%）より減少した。
- (1)⑦ 町内会・自治会への参加は、「年に数回」が23.1%、「月1～3回」が6.9%であった。「参加していない」が40.9%で、前回調査（46.3%）より大幅に減少した。
- (1) 収入のある仕事への参加は、「週に4回以上」が13.5%であった。前回調査（11.1%）より増加した。また、「週2～3回」が5.7%、「年に数回」が4.8%、「月1～3回」が2.9%、「週1回」が1.5%であった。「参加していない」が46.4%で、前回調査（50.0%）より大幅に減少した。
- (2) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として「参加してもよい」が42.9%、「是非参加したい」が5.0%であった。
- (3) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動に企画・運営（お世話役）として「参加してもよい」が24.5%、「是非参加したい」が1.6%であった。

問5(1) 以下のような会やグループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

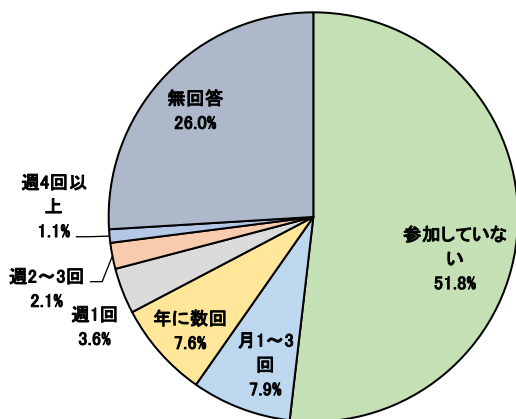
① ボランティアのグループ



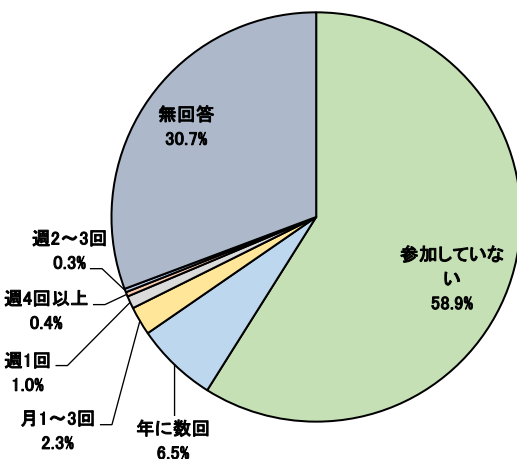
② スポーツ関係のグループやクラブ



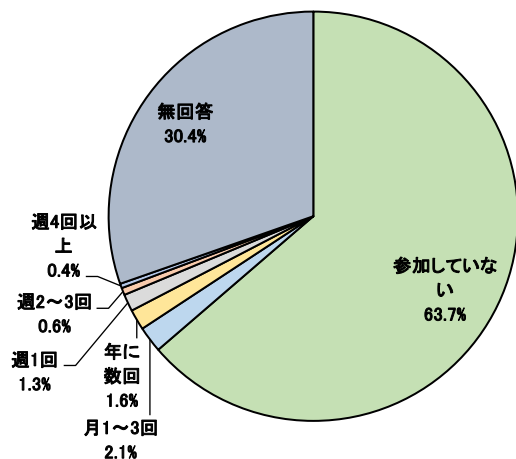
③ 趣味関係のグループ



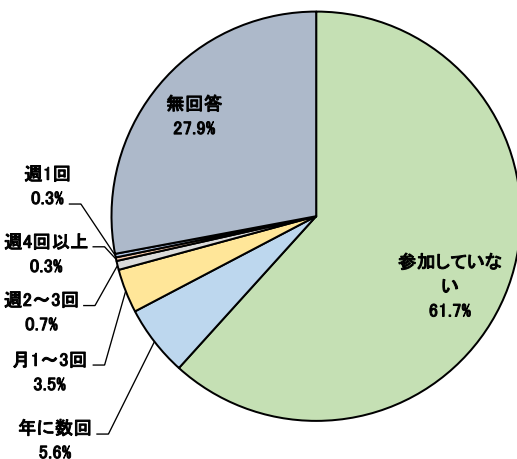
④ 学習・教養サークル



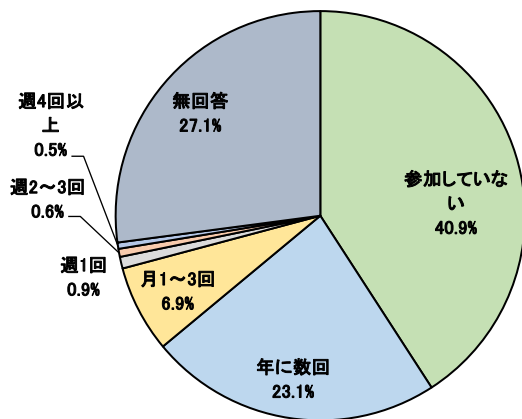
⑤ 介護予防のための憩いの場



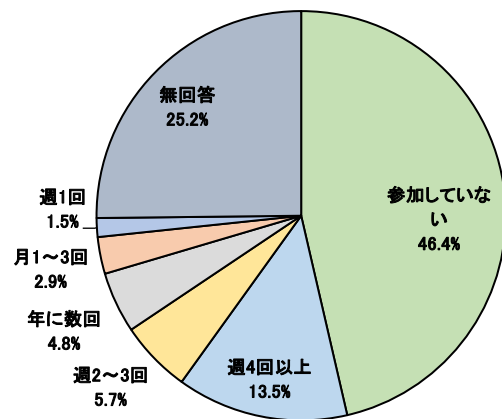
⑥ 老人クラブ



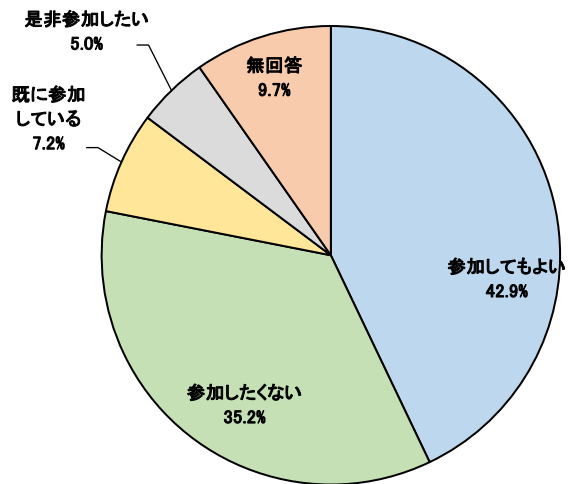
⑦ 町内会・自治会



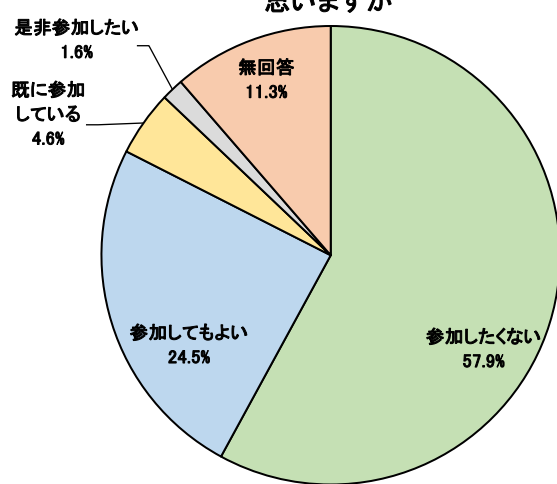
⑧ 収入のある仕事



問5(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか



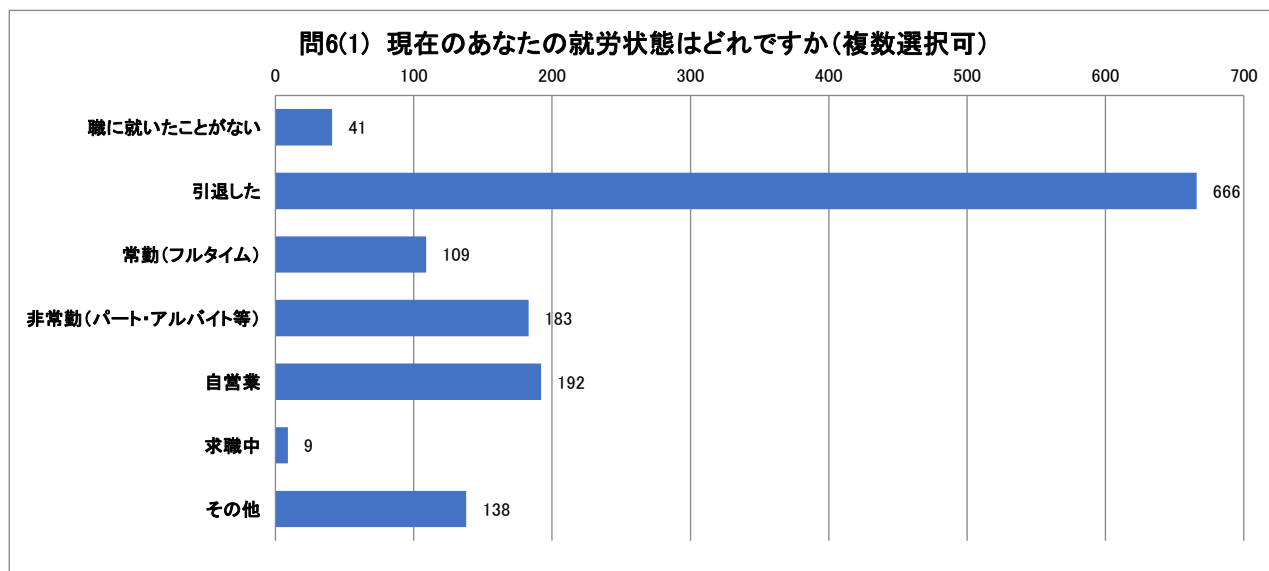
問5(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか



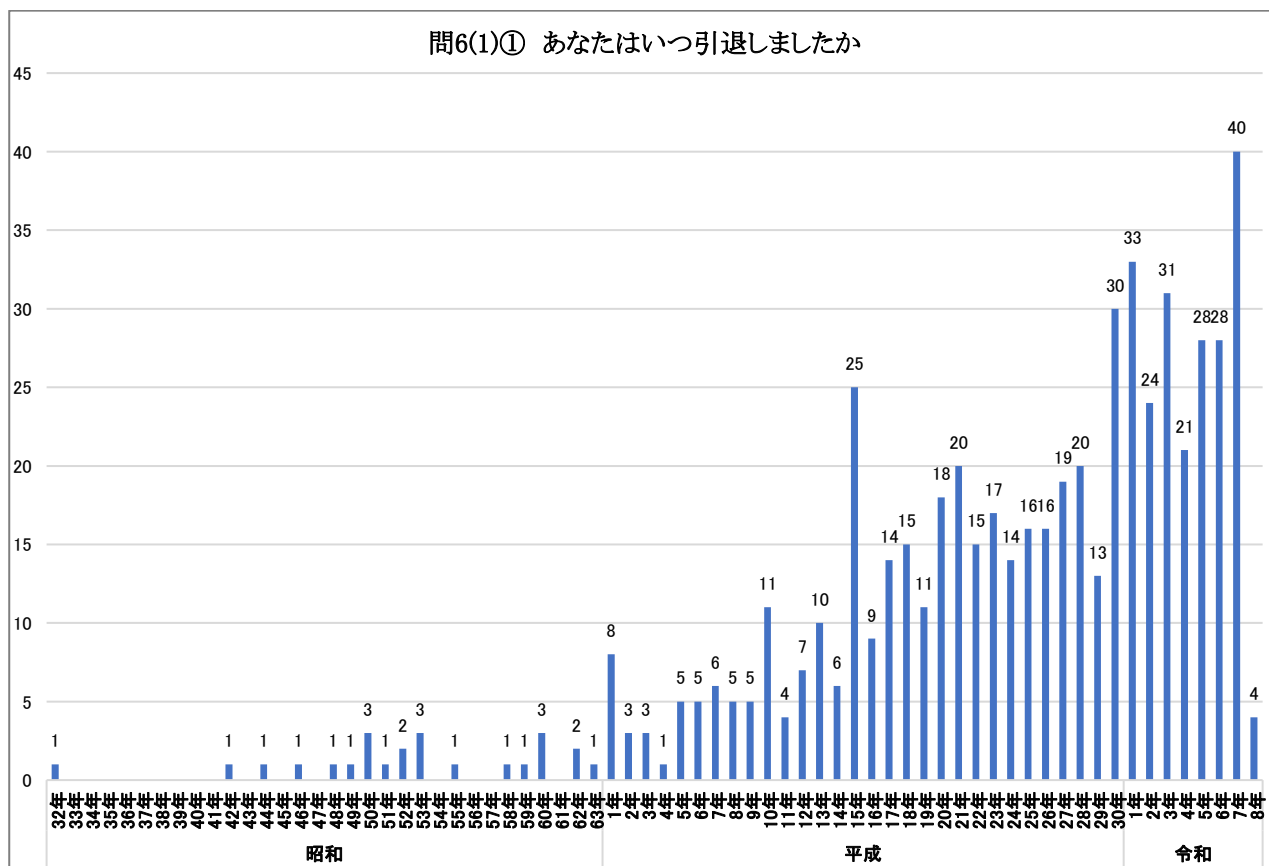
問6 就労について

(1) 現在の就労状態について、「引退した」が最も多く、次いで「自営業」、「非常勤（パート・アルバイト等）」、「その他」、「常勤（フルタイム）」、「職についたことがない」、「求職中」の順であった。複数選択可能のため重複があるとしても、現在何らかの就労をしている方が、全回答中36.2%（求職中を含めると36.8%）を占めた。

(1)① 「引退した」と答えた方のうち、引退の時期については、昭和が2.1%、平成が27.4%、令和が15.2%であった。（無回答17.4%）

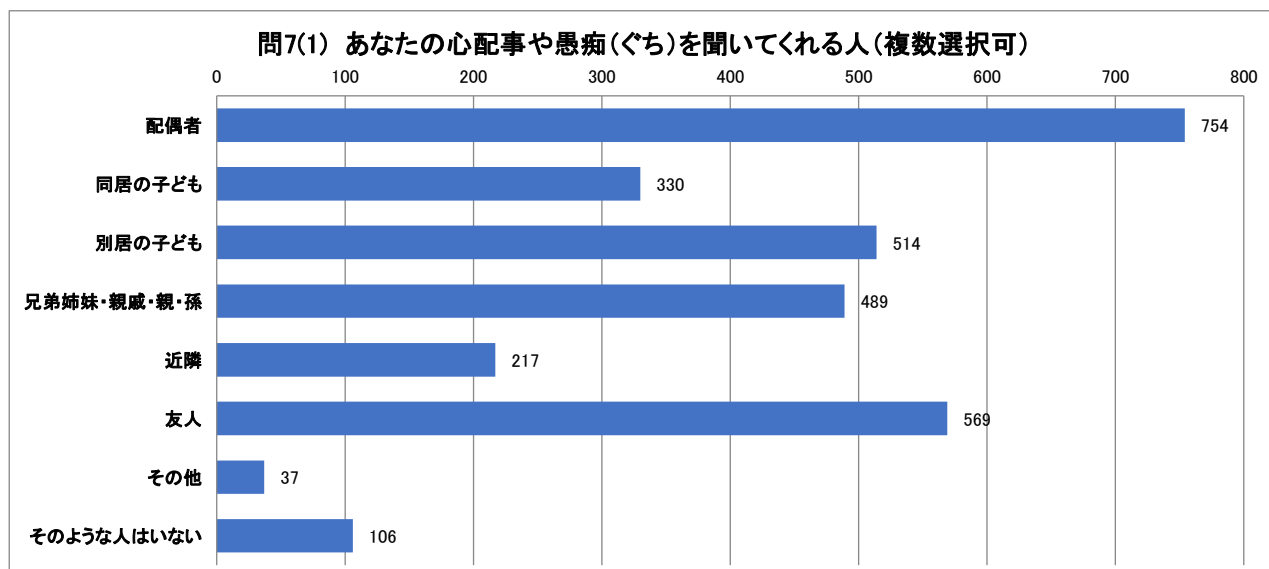


問6(1)で「引退した」の方のみ

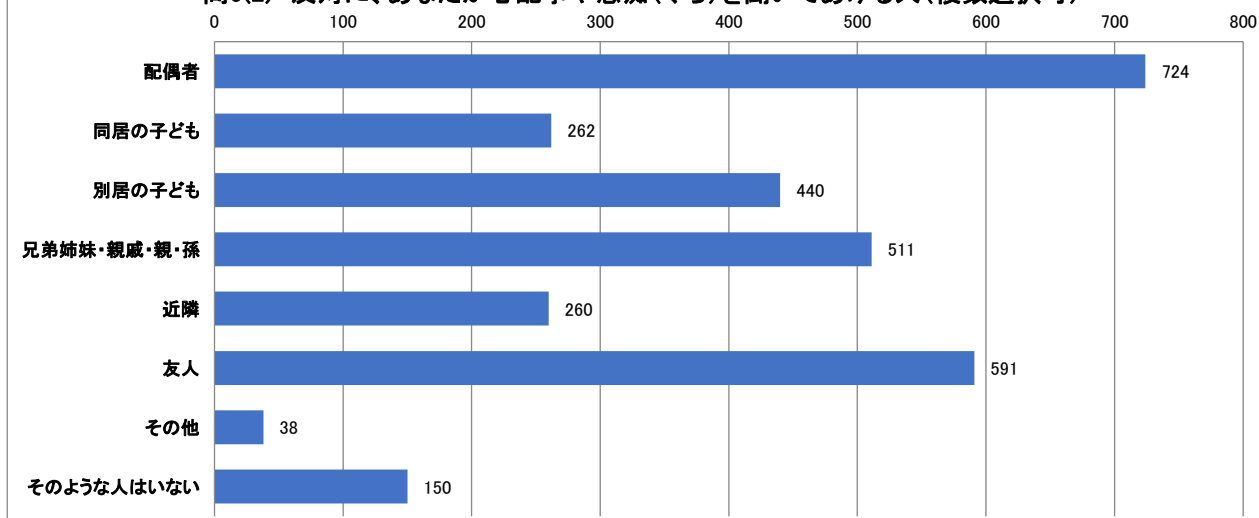


問7 たすけあいについて

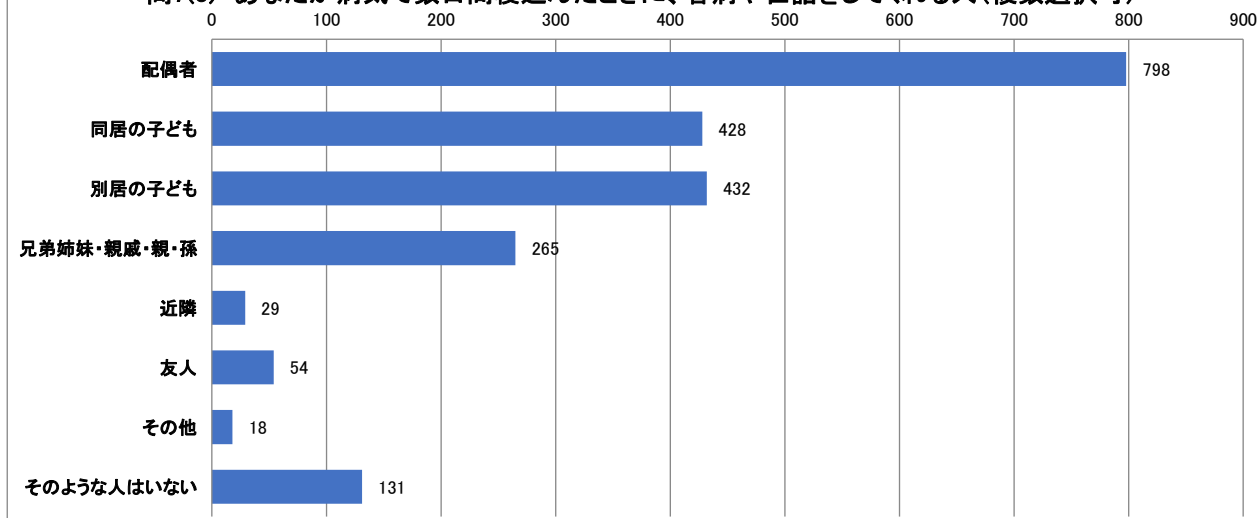
- (1) 心配事など話を聞いてくれる人については、1位が「配偶者」、2位が「友人」、3位が「別居の子ども」、4位が「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、5位が「同居の子ども」であった。前回調査から3位と4位が入れ替わる結果となった。
- (2) 心配事など話を聞いてあげる人については、1位が「配偶者」、2位が「友人」、3位が「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、4位が「別居の子ども」、5位が「同居の子ども」と、聞いてくれる人と同様の結果となった。
- (3) 病気の時に看病や世話をしてくれる人については、1位が「配偶者」、2位が「別居の子ども」、3位が「同居の子ども」、4位が「兄弟姉妹・親戚・親・孫」であった。「心配事など話を聞いてくれる」と比較すると病気の時の看病や世話になると実際の身内の色が濃くなるように感じられる。同居の家族が重要な役割を締めていることが明確となった。また、「そのような人はいない」の割合が相対的に高いことにも注目する必要がある。
- (4) 看病や世話をしてあげる人については、1位が「配偶者」、2位が「同居の子ども」、3位が「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、4位が「別居の子ども」であった。
- (5) 家族や友人以外で何かあったときに相談する相手については、1位が「医師・歯科医師・看護師」、2位が「地域包括支援センター・役所・役場」、3位が「社会福祉協議会・民生委員」であった。一方、「いない」と回答した方が21.9%あり、前回調査（26.9%）と比較すると減少しているものの、今後も困りごとの相談窓口の啓発・発信を継続して実施する必要がある。
- (6) 友人・知人と会う頻度については、「週に何度かある」が29.8%、「月に何度かある」が29.1%、「年に何度かある」が13.8%、「毎日」が10.3%、「ほとんどない」が11.6%であった。
- (7) この1か月間に会った友人・知人の人数については、「3～5人」が27.4%、「10人以上」が24.8%、「1～2人」が20.9%であった。
- (8) よく会う友人・知人との関係については、1位が「近所・同じ地域の人」、2位が「仕事での同僚・元同僚」、3位が「趣味や関心が同じ友人」、4位が「学生時代の友人」、5位が「幼なじみ」であった。前回調査から2位と3位が入れ替わる結果となった。



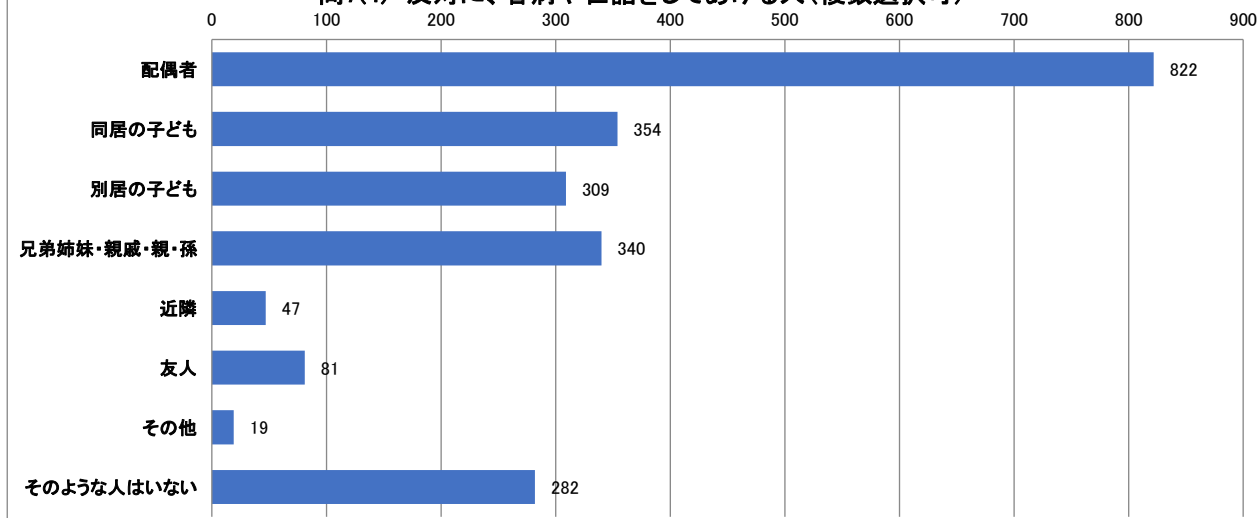
問6(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(複数選択可)



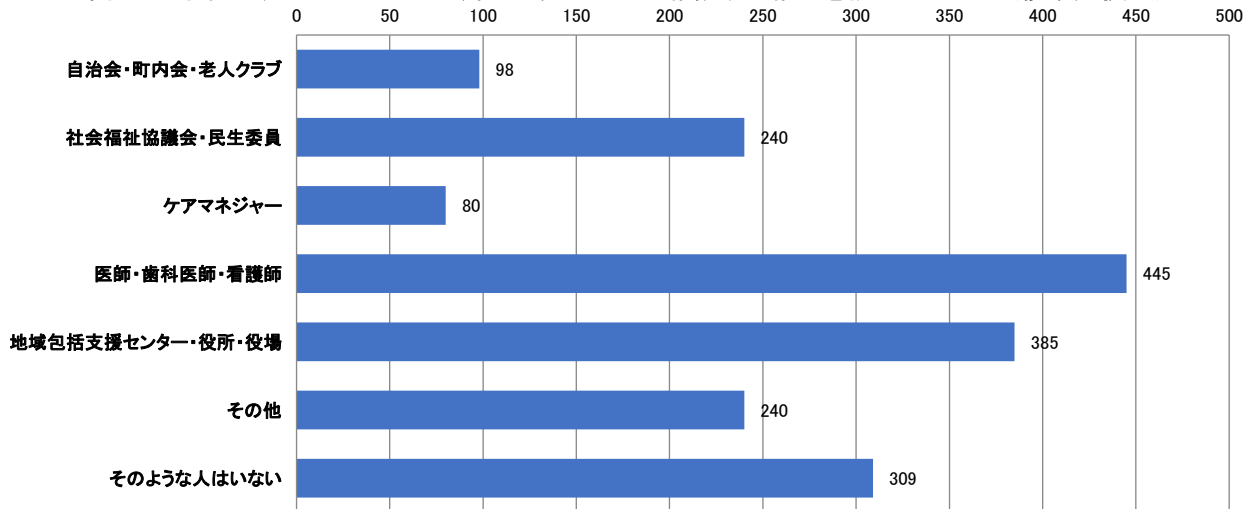
問7(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(複数選択可)



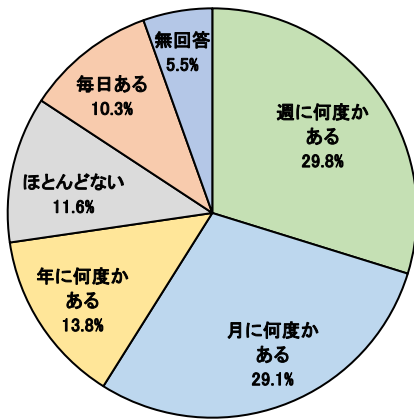
問7(4) 反対に、看病や世話をしてくれる人(複数選択可)



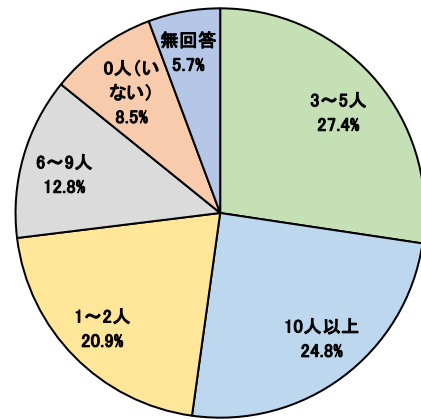
問7(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(複数選択可)



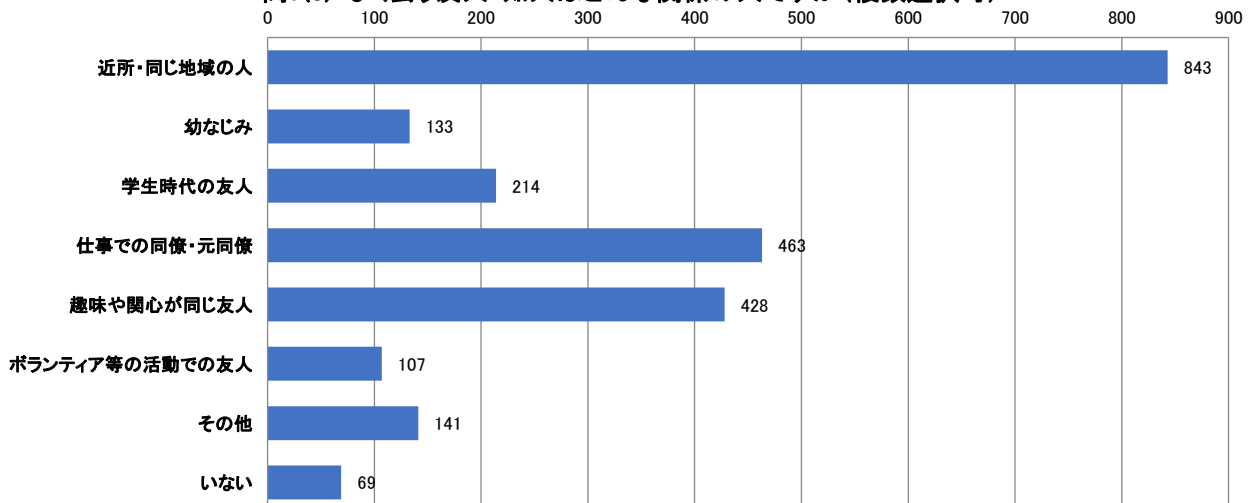
問7(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか



問7(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか

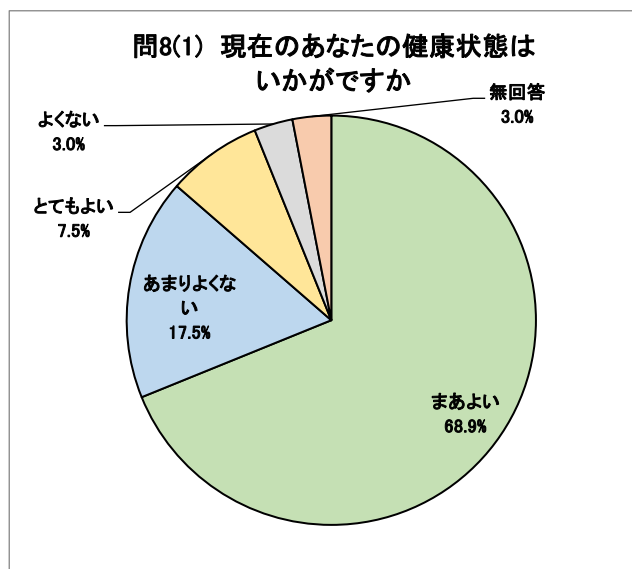


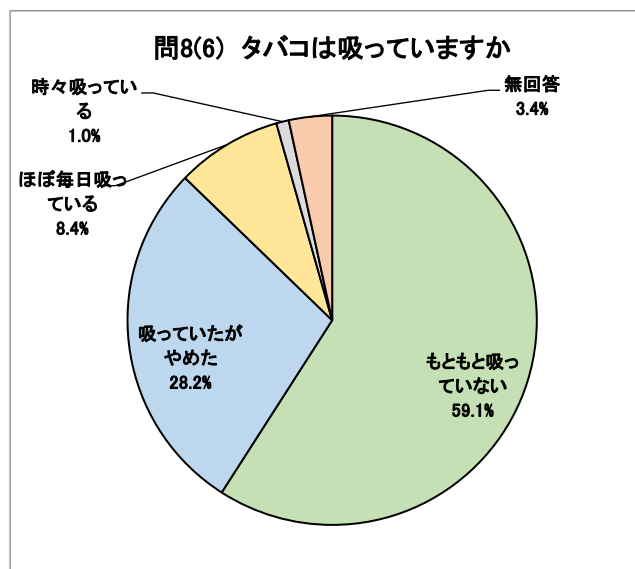
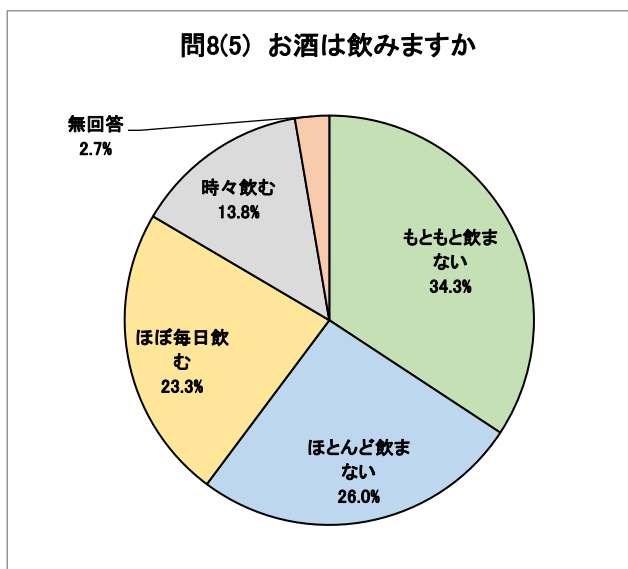
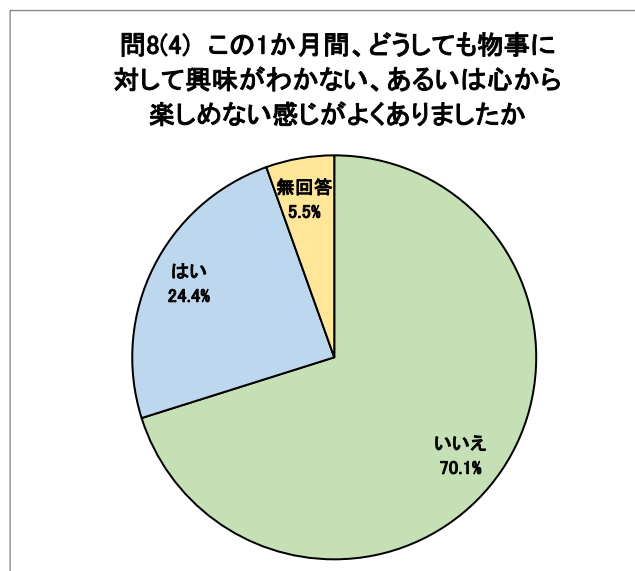
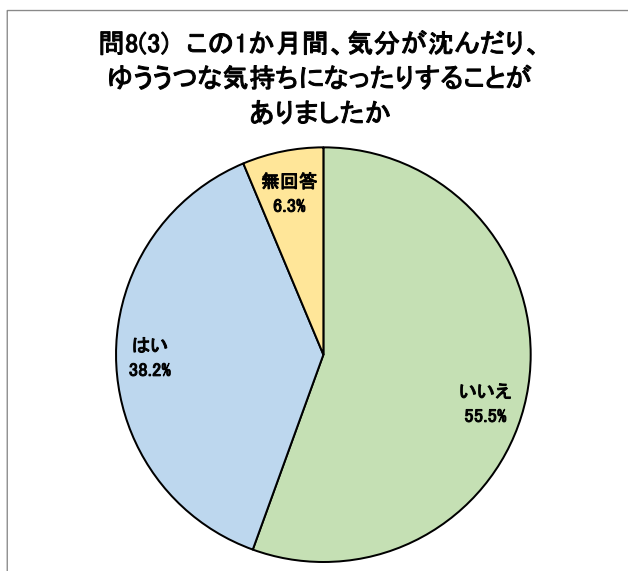
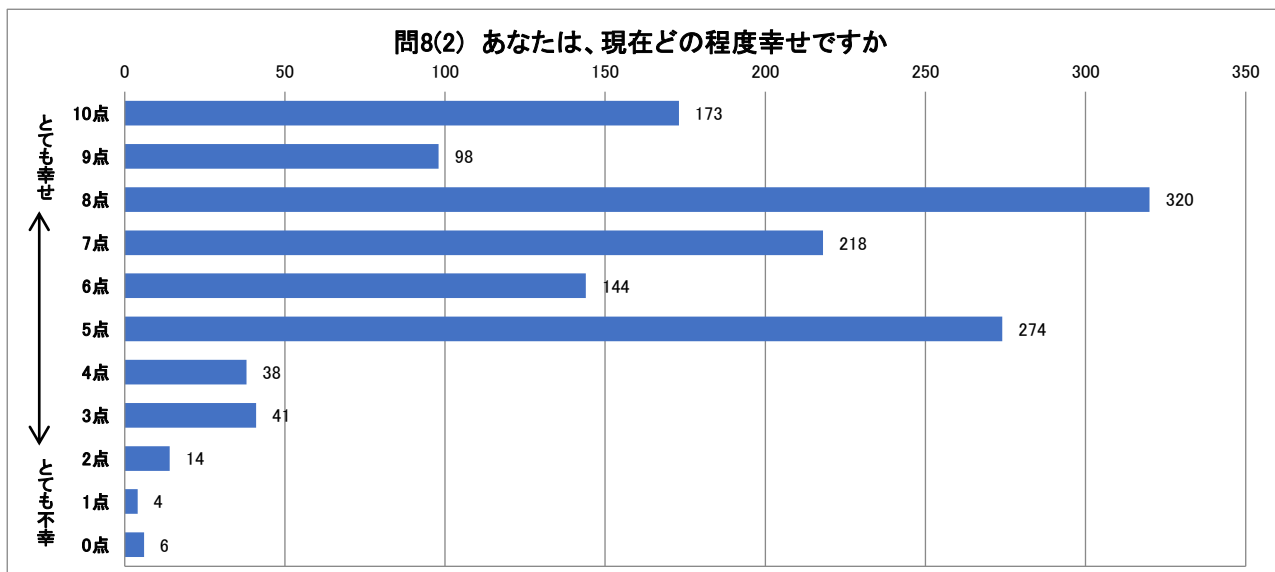
問7(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか(複数選択可)



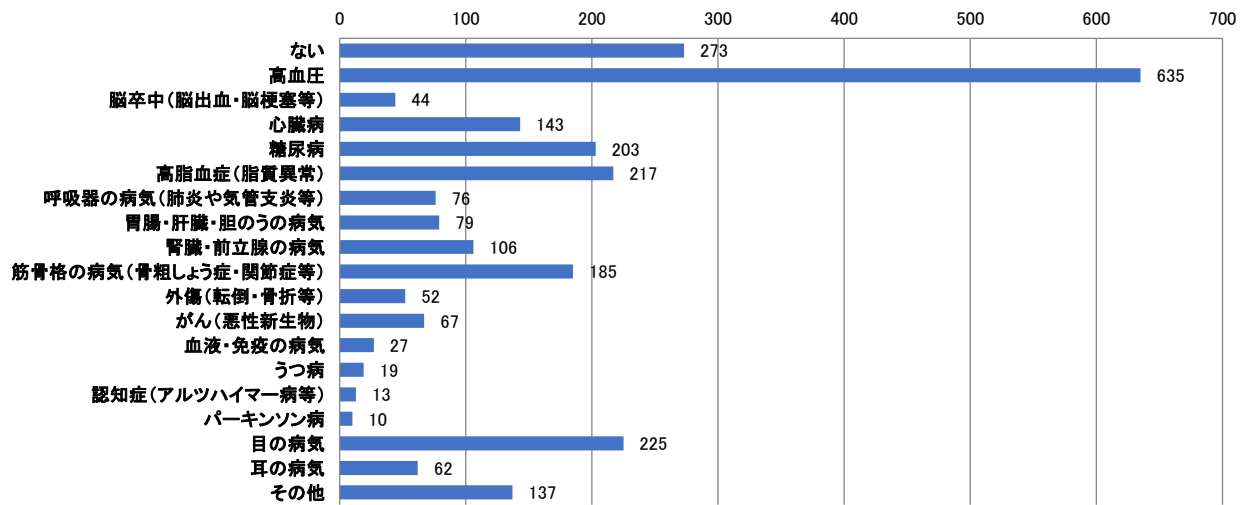
問8 健康について

- (1) 現在の健康感が「とてもよい」、「まあよい」合わせて良好だと感じている方はあわせて76.4%であった。前回調査（74.3%）より増加した。
- (2) 現在の幸福感は、10点を満点として、「8点」が最も多く、次いで上位は「5点」、「7点」、「10点」、「6点」、「9点」の順であった。5点以上の方がほとんどを占めており、全般的に幸せだと感じている方が多かった。
- (3) この1か月間、気分が沈んだり憂うつな気持ちになったりすることがある方は38.2%であった。前回調査（37.5%）より若干増加した。
- (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった方の割合は24.4%であった。前回調査と同じ割合であった。
- (5) お酒を飲むことについて、「ほぼ毎日飲む」が23.3%、「時々飲む」が13.8%、「ほとんど飲まない」が26.0%、「もともと飲まない」が34.3%であった。飲む方の割合はあわせて37.1%であった。前回調査（37.8%）より若干減少した。
- (6) タバコを吸うことについて、「ほぼ毎日吸っている」が8.4%、「時々吸っている」が1.0%、「吸っていたがやめた」が28.2%、「もともと吸わない」が59.1%であった。吸っている方の割合はあわせて9.4%であった。前回調査（8.4%）より若干増加した。
- (7) 治療中または後遺症のある病気の有無について、「高血圧」が最も多く、次いで「目の病気」、「高脂血症（脂質異常）」の順であった。
- (8) この1か月間、以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じる人は33.7%であった。前回調査（30.3%）より増加した。
- (9) この1か月間、自分が役に立つ人間だと思えない事がある人は21.3%であった。前回調査（22.3%）より若干減少した。
- (10) この1か月間、わけもなく疲れたような感じがする人は32.8%であった。前回調査（29.1%）より増加した。

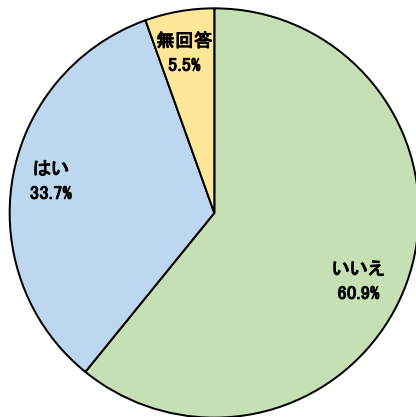




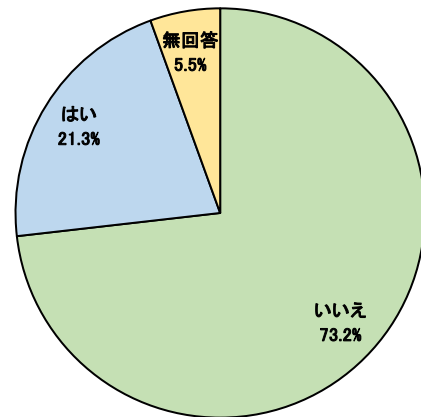
問8(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(複数選択可)



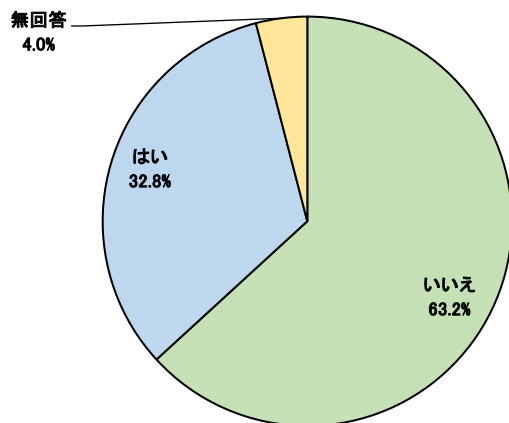
問8(8) この1か月間、以前は楽に出来ていたことが今ではおっくうに感じられますか



問8(9) この1か月間、自分が役に立つ人間だと思えないことがありましたか

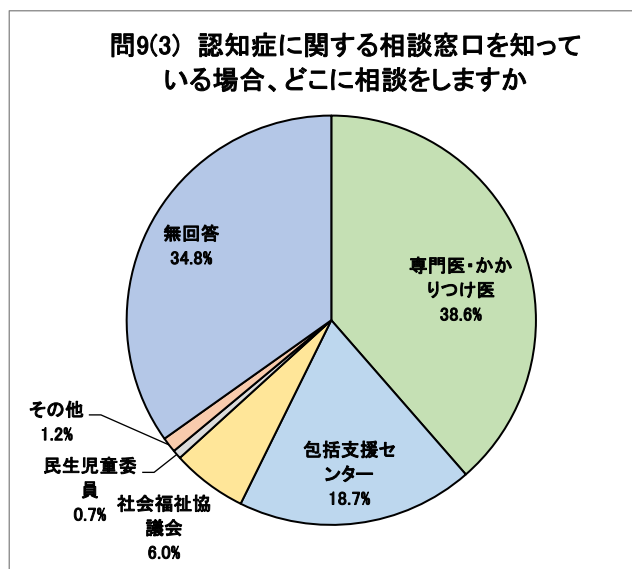
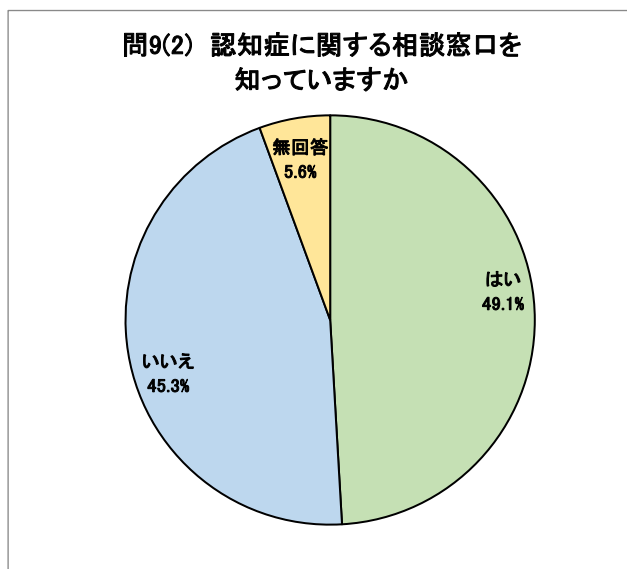
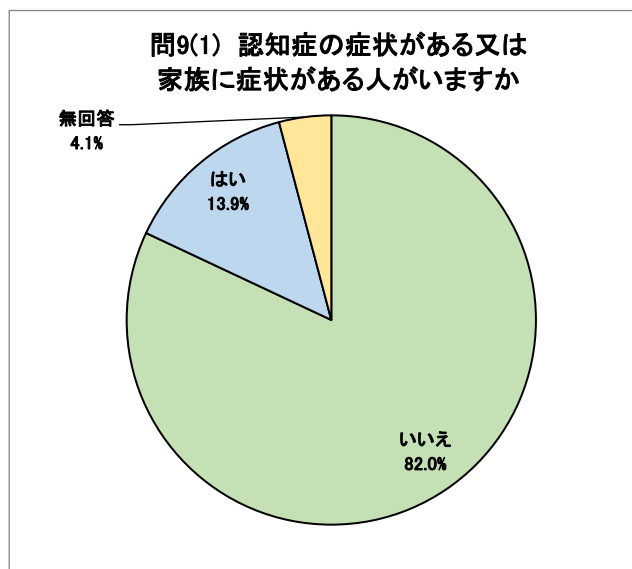


問8(10) この1か月間、わけもなく疲れたような感じがすることがありましたか



問9 認知症にかかる相談窓口の把握について

- (1) 認知症の症状があるか又は家族にあるかと答えた方は13.9%であった。前回調査(12.6%)より増加した。
- (2) 認知症に関する相談窓口を知っている方は49.1%であった。前回調査(45.9%)より増加した。認知症の問題が身近にない方でも半数近くが相談窓口を知っている。
- (3) 認知症に関する相談窓口を知っている場合の相談先は、「専門医・かかりつけ医」が38.6%、「地域包括支援センター」が18.7%、「社会福祉協議会」が6.0%、「民生児童委員」が0.7%であった。認知症対策で最も重要な早期診断・早期治療のためにも、まずは相談してもらうことが重要であり、相談窓口の周知を継続して行う必要がある。

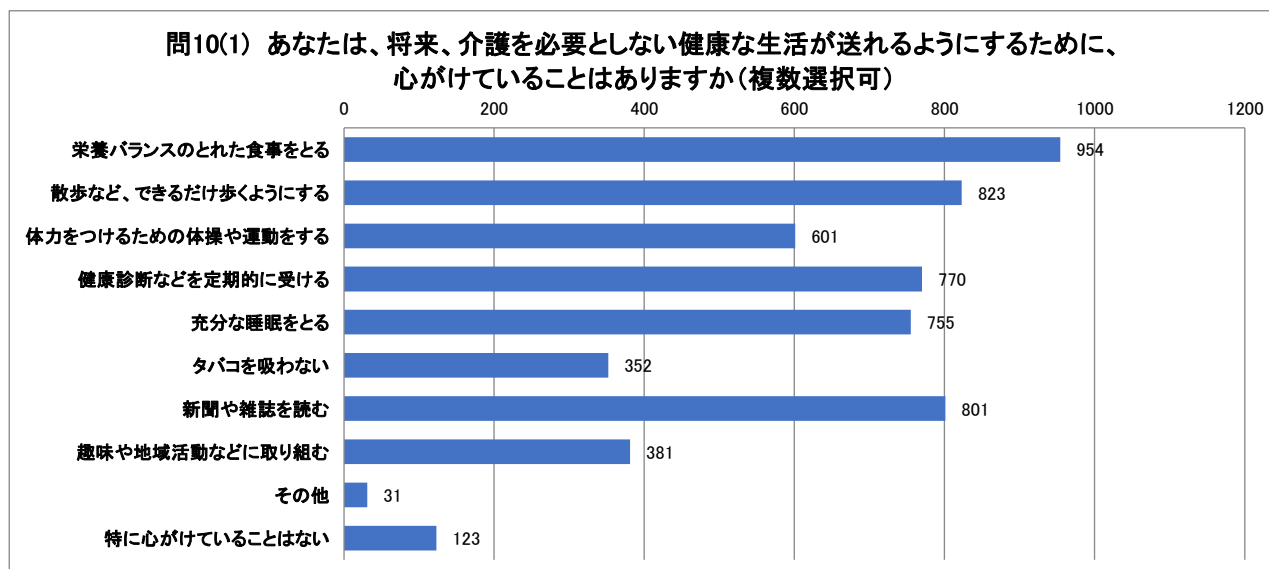


問10 介護予防について

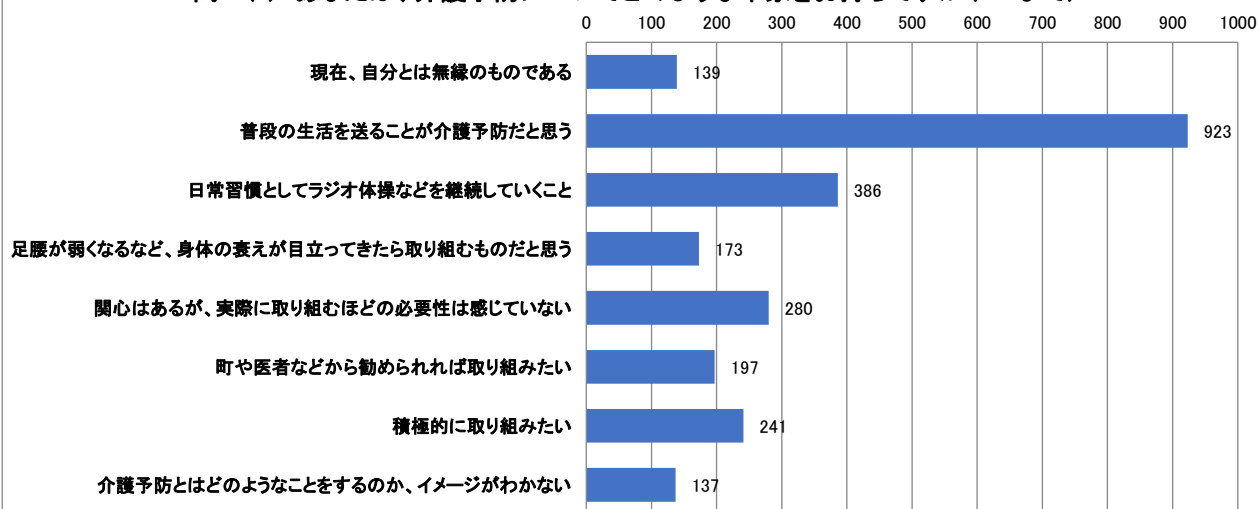
- (1) 将来、介護を必要としない健康な生活が送れるようにするために心がけていることは、多い順に「栄養バランスのとれた食事をする」、「散歩などできるだけ歩くようにする」、「新聞や雑誌を読む」、「健康診査などを定期的に受ける」、「十分な睡眠をとる」、「体力をつけるための体操や運動をする」、「趣味や地域活動などに取り組む」、「タバコを吸わない」、「その他」であった。いずれの項目にもまんべんなく分布しており、どの項目も介護予防に必要なこととして認識されていることが窺える。
- (2) 介護予防についての印象は、多い順に「普段の生活を送ることが介護予防だと思う」、「日常習慣としてラジオ体操などを継続していくこと」、「関心はあるが、実際に取り組むほどの必要性は感じていない」、「積極的に取り組みたい」、「町や医者などから勧められれば取り組みたい」、「現在、自分とは無縁のものである」、「介護予防とはどのようなことをするのか、イメージがわからない」であった。
- (3) 三朝町が行っている介護予防事業（※）に、どのような条件であれば参加したり、取り組んでみたいと思うかという設問についての回答は、多い順に「自分の生活時間に合わせた時間と場所で参加できる」、「公民館や集会所など、身近な場所で事業が実施される」、「1人ではなく、友人や知人を誘って参加できる」、「事業参加やサービス利用の費用は無料か負担にならない程度である」、「プログラムの内容や効果について、わかりやすく説明した資料がある」であった。前回調査と同様、介護予防には「友人や知人と一緒に」「身近な場所で」「自分の生活時間に合わせた」条件を望んでいると思われる。

※三朝町が行っている介護予防事業

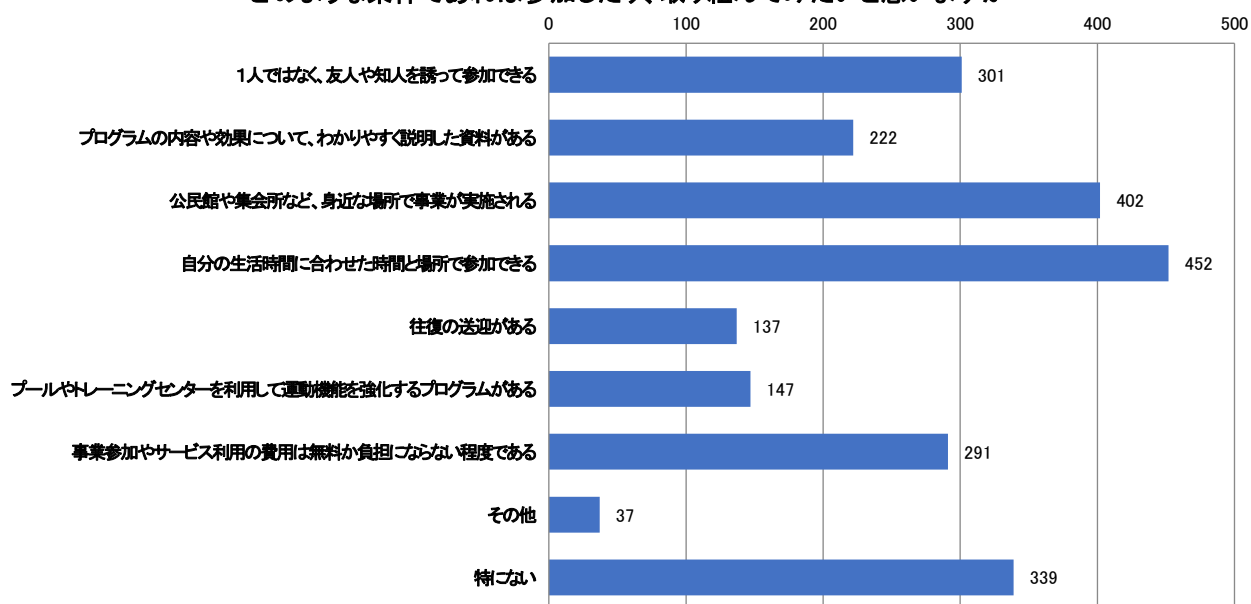
- 介護予防教室（運動機能向上・口腔機能向上・栄養改善・認知症予防）
- 週間体操ラ・ドン！
- いきいきサロン事業
- 認知症早期発見事業



問10(2) あなたは、介護予防についてどのような印象をお持ちですか(3つまで)



問10(3) 三朝町では次のような介護予防事業を実施していますが、どのような条件であれば参加したり、取り組んでみたいと思いますか

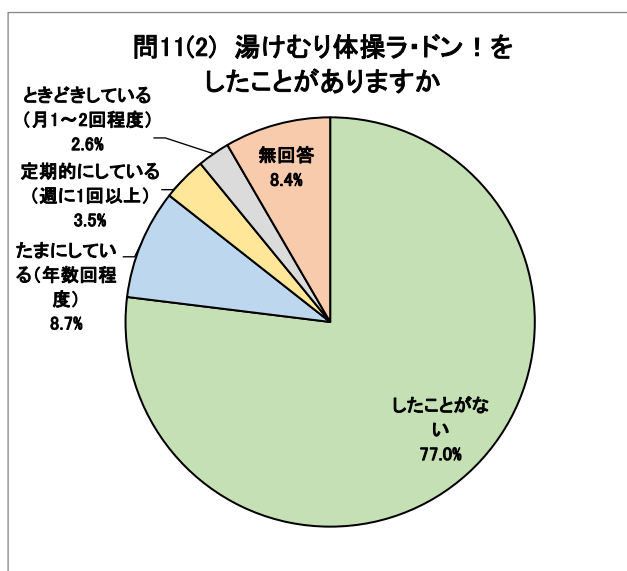
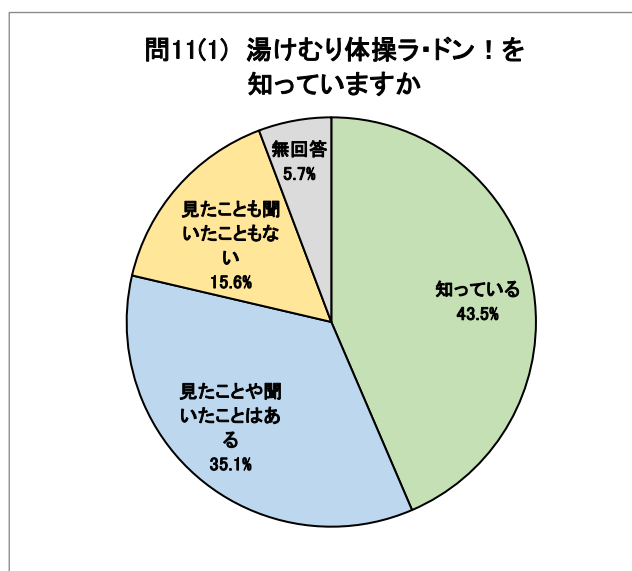


※三朝町が行っている介護予防事業

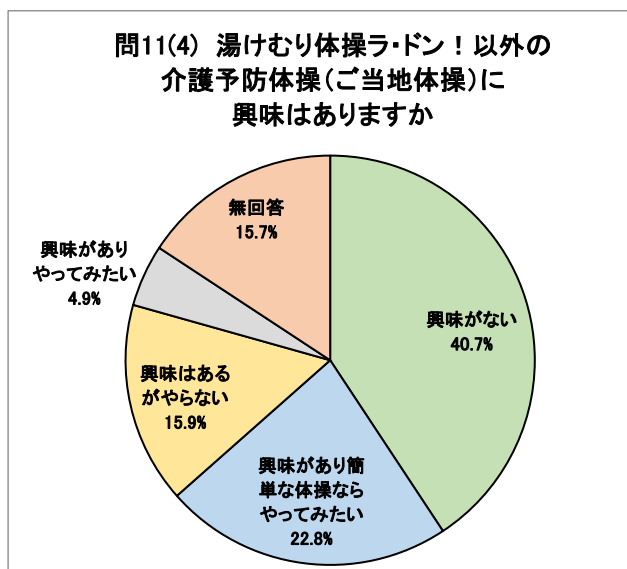
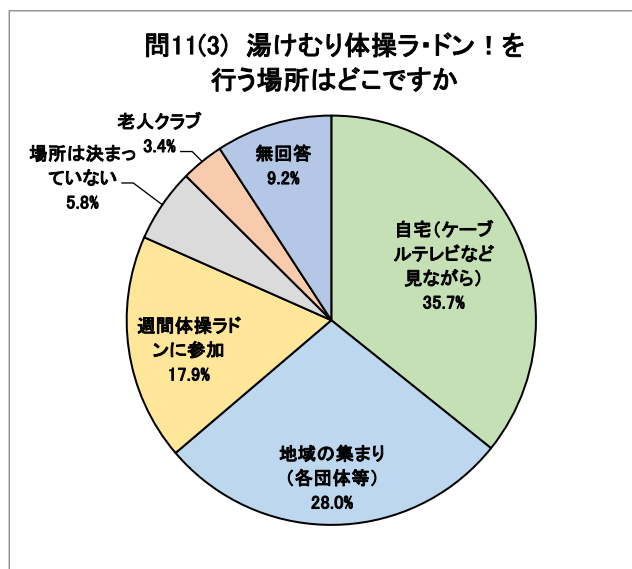
- 介護予防教室(運動機能向上・口腔機能向上・栄養改善・認知症予防)
- 週間体操ラ・ドン!
- いきいきサロン事業
- 認知症早期発見事業

問11 介護予防の取り組みとして実施している湯けむり体操ラ・ドン！について

- (1) 湯けむり体操ラ・ドン！を「知っている」、「見たことや聞いたことはある」の割合はあわせて78.7%あった。前回調査（72.6%）より増加した。
- (2) 湯けむり体操ラ・ドン！をしたことがない方は77.0%であった。前回調査（70.2%）より増加した。
- (3) 湯けむり体操ラ・ドン！を行う場所は、「自宅（ケーブルテレビなどを見ながら）」が35.7%、「地域の集まり（各団体等）」が28.0%、「週間体操ラドンに参加」が17.9%、「場所は決まっていない」が5.8%、「老人クラブ」が3.4%であった。
- (4) 湯けむり体操ラ・ドン！以外の介護予防体操（ご当地体操）について、「興味がない」が40.7%、「興味があり簡単な体操ならやってみたい」が22.8%、「興味はあるがやらない」が15.9%、「興味がありやってみたい」が4.9%であった。



問11(2)で「したことがない」以外の方のみ



問12 権利擁護支援について

- (1) いざという時に、頼れる家族（親族）の有無について、「身近に頼れる家族（親族）がいる」が70.6%、次いで「今は家族（親族）がいるが将来はわからない」が13.0%、「家族（親族）はいるが頼れない」が7.2%、「家族（親族）はいるが疎遠である」が2.3%、「家族（親族）はいない」が1.5%であった。およそ23.9%の人が、頼れる人がいないか、将来的な不安を抱えていることが浮き彫りとなった。国による法制等に関する環境整備を念頭に置きながら、今後可能な支援を検討する必要があると思われる。
- (2) 成年後見制度について全く知らない人の割合は18.5%であった。十分周知されているとは言えないことから、制度や相談窓口の周知を積極的に行うことが望ましい。

